

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 30 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 2 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 5 名、留学生 2 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 2 件、国際会議 0 件、会議報告 6 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	5-1 博物館における情報・メディアの意義	前迫孝憲	2010/7/1	日本展示学会企画・編集「展示論－博物館の展示をつくる－」(雄山閣)	134-137
学術論文	低帯域高精細映像伝送方式による国際間遠隔学習	中澤明子、松河秀哉、奥林泰一郎、森秀樹、前迫孝憲	2010/12/1	日本教育工学会論文誌	34(Suppl.) 85-88
学術論文	Scratch を用いた小学校プログラミング授業の実践～小学生を対象としたプログラミング教育の再考～	森秀樹、杉澤学、張海、前迫孝憲	2011/3/1	日本教育工学会論文誌	34(4)387-394
会議報告/口頭発表	プログラミングを活用した小学校理科学習	森秀樹、杉澤学、前迫孝憲	2010/9/1	日本教育工学会第 26 回全国大会講演論文集	737-738
会議報告/口頭発表	動画とスライドショーを用いた国際交流学習の実施－Japan-USA Teen Talk Project を事例として－	奥林泰一郎、中澤明子、スペンス・ゼオースキ、前迫孝憲	2010/9/1	日本教育工学会第 26 回全国大会講演論文集	573-574
会議報告/口頭発表	魚の生態観察を目的とする複合現実感技術を用いた映像展示の開発	今井亜湖、スペンス・ゼオースキ、吉富友恭、大塚一幸、前迫孝憲	2010/9/1	日本教育工学会第 26 回全国大会講演論文集	47-50
会議報告/口頭発表	文字または音声による設問の判断への影響－反応時間からの一検討	辻岡圭子、前迫孝憲	2010/9/1	日本教育工学会第 26 回全国大会講演論文集	315-316

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	PCとフリーウェアを活用した低帯域高精細映像伝送方式による国際間遠隔学習の実	中澤明子、松河秀哉、奥林泰一郎、森秀樹、前迫孝憲	2010/9/1	日本教育工学会第26回全国大会講演論文集	571-572
会議報告/口頭発表	3地点接続の「超鏡」を用いた遠隔学習の実施	中澤明子、奥林泰一郎、森秀樹、中村優希、前迫孝憲、片岡佐知子、松山豊樹、中尾正博、佐藤哲夫、小川恵美子、川杉照雄、橋本剛正、森川治	2011/3/1	日本教育工学会研究報告集	JSET11-1、255-262

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 14 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 0 件）、修士（主査 1 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 1 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 5 名、留学生 0 名、
 研究生 0 名、その他（ 旧外国語学部教職 100 名 ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 2 件、国際会議 4 件、会議報告 15 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	海保博之・松原望(監修)竹村和久・住吉チカ・北村英哉(編集)『感情と思考の科学事典』ワーキングメモリ	苧阪満里子	2010/4/1	朝倉書店	
学術論文	ワーキングメモリ: 発達と加齢	苧阪満里子	2010/12/1	小児の精神と神経	vol.50, no.4, 361-366.
学術論文	First-person perspective effects on theory of mind without self-reference	Otsuka, Y., Osaka, N., Yaoi, K., & Osaka, M.	2011/3/1	PLoS ONE	
国際会議 (proceedings あり)	Attentional control of executive function in elderly working memory: An fMRI study	Osaka, M., Otsuka, Y., & Osaka, N.	2010/7/1		
国際会議 (proceedings あり)	Individual differences in working memory capacity and distractor processing: An fMRI study	Minamoto, T., Osaka, M., & Osaka, N.	2010/7/1		
国際会議 (proceedings あり)	fMRI BOLD signal changes as a power function of luminance: An internal psychophysics approach	Osaka, N., Tsubomi, H., Ikeda, T., & Osaka, M.	2010/10/1		
国際会議 (proceedings あり)	Neural bases of focusing attention in working memory: An fMRI study based on individual differences	Osaka, M.	2010/10/1	Clinical Neurophysiology: Abstracts of ICCN 2010: 29th International Congress of Clinical Neurophysiology.	vol.121, no.S1, S12-S12.

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 17 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 1 件）、修士（主査 1 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 1 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 1 名）、学部生 8 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 3 件、学術論文 2 件、国際会議 0 件、会議報告 1 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 1 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	専門家の立場からまちの居場所を語る 地域におけるボランティア・研究を通して. 日本建築学会(編)『まちの居場所 まちの居場所をみつける/つくる』	渥美公秀	2010/11/1	東洋書店	pp.163-171
著書	地震イツモノート	地震イツモプロジェクト(編著)・渥美公秀(監修)・寄藤文平(絵)	2010/12/1	ポプラ社	
著書	ワードマップ:防災・減災の人間科学	矢守克也・渥美公秀(編著)	2011/1/1	新曜社	
学術論文	災害復興と協働想起:二十村郷盆踊り大会の事例	渥美公秀	2011/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	
その他	災害ボランティア活動の 15 年	渥美公秀	2010/4/1	都市政策	138, 37-44.

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 29 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 8 名、前期課程 5 名、副指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名）、卒業研究指導学生数 2 名、留学生 0 名、研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 3(単)2(編)4(共) 件、学術論文 12 件、国際会議 2 件、会議報告 件、大学等の報告 件、解説・総説 7 件、書評 2 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	『哲学という地図 松永哲学を読む』	檜垣立哉・村瀬鋼編	2010/8/1	勁草書房	
著書	『哲学への誘い? 哲学の振る舞い』第六章「哲学する自己」	松永澄夫・村瀬鋼編	2010/11/1	東信堂	
著書	『フーコー講義』河出ブックス 24	檜垣立哉	2010/12/1	河出書房新社	
著書	『瞬間と永遠 ジル・ドゥルーズの時間論』	檜垣立哉	2010/12/1	岩波書店	
著書	『空間と時間の病理 臨床医学の諸相』「賭博の時間」p218-237を担当	木村敏・野家啓一編	2011/1/1	河合文化教育研究所	
著書	『西田幾多郎の生命哲学』	檜垣立哉	2011/1/1	講談社 学術文庫	
著書	生権力の現在 フーコーから現代を読む	檜垣立哉 編	2011/2/1	勁草書房	
著書	『社会学ベーシック9 政治・権力・公共性』ドゥルーズ／ガタリの項	井上俊・伊藤公雄編	2011/3/1	世界思想社	115-124
著書	『時間の人類学』第5章 生命のリズム／儀礼のリズム	西井涼子編	2011/3/1	世界思想社	142-157
学術論文	生命における主体／生態における視点 後 ドーキンスと遺伝子の自己 連載ヴィータ・テクニカ(7)	檜垣立哉	2010/4/1	現代思想4月号	38-5 p.8-19
学術論文	大正生命主義と生政治	檜垣立哉	2010/5/1	フランス・哲学思想研究	14号 p.75-84
学術論文	確率・環境・自己 上 連載ヴィータ・テクニカ(8)	檜垣立哉	2010/5/1	現代思想	38-7 p.8-17
学術論文	人口・環境・主体 中 統治の主体としての人口 連載ヴィータテクニカ(9)	檜垣立哉	2010/6/1	現代思想	38-8 p.18-29

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	人口・環境・主体 下 人口論から自己論へ 連載ヴィータテクニカ(10)	檜垣立哉	2010/7/1	現代思想	38-9 p17-27
学術論文	テクネーとしての自己 上 告白／牧人司祭権力の両義性 連載ヴィータ・テクニカ 11回	檜垣立哉	2010/8/1	現代思想	Oct-38
学術論文	テクネーとしての自己 中 パレーシアとしてのテクネー 連載ヴィータテクニカ(12)	檜垣立哉	2010/9/1	現代思想	38-11 p.28-38.
学術論文	テクネーとしての自己 下 フーコーのテクネー論・未来のテクネー論 連載ヴィータ・テクニカ13	檜垣立哉	2010/11/1	現代思想	38-13 p.16-27
学術論文	ゲシュテルとパノプチコン上 ハイデガーの技術論 ヴィータテクニカ14	檜垣立哉	2010/12/1	現代思想	38-14 p20-32
学術論文	ゲシュテルとパノプチコン 中 テクネーの主体とは誰か 連載ヴィータテクニカ15回	檜垣立哉	2011/1/1	現代思想	39-1 8- 19
学術論文	ゲシュテルとパノプチコン 下 技術の主体の微分化に向けて	檜垣立哉	2011/2/1	現代思想	39-2, 20-30
学術論文	マイナーテクノロジーとメタリック生命体上 国家の外のテクネー 連載ヴィータテクニカ17回	檜垣立哉	2011/3/1	現代思想	39-3 28-38
解説・総説	オグリキャップ 走る意志について	檜垣立哉	2010/8/1	週刊競馬ブック	2590号 196-197
解説・総説	賭博哲学第一回 勝つ経験／負ける経験	檜垣立哉	2010/11/1	UMAJIN	2010-12月 号 142-143
解説・総説	賭博哲学2 競馬の記憶／記憶の競馬	檜垣立哉	2010/12/1	umajin	2011年 1月号 p.126-127
解説・総説	賭博哲学 第三回 お金について1	檜垣立哉	2011/1/1	umajin	2月号 p.126-127.
解説・総説	賭博哲学4 お金とは何か2	檜垣立哉	2011/2/1	umajin	22 94-95
解説・総説	賭博哲学 第五回 父と子	檜垣立哉	2011/3/1	umajin	80-81
書評	ヴァイツゼカー『パトゾフィー』書評	檜垣立哉	2010/4/1	週刊読書人	2834号 4p
書評	言葉を紡ぎつづける「根無し草」としての生 金森修『＜生政治＞の哲学』書評	檜垣立哉	2010/9/1	図書新聞	2981号 p5
その他	カイロスに遊ぶ 楽しみの源流	檜垣立哉	2010/9/1	Tasc Monthly	417号 8-15

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 5 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 1 件）、修士（主査 1 件、副査 2 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名、副指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名）、卒業研究指導学生数 0 名、留学生 3 名、研究生 2 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 1 件、国際会議 7 件、会議報告 4 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 1 件、書評 1 件、その他（翻訳 1 件、ハンドブック 1 件）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	Media Literacy Education for Japanese Pre-school and Elementary School Children	Mami Komaya, Beverley Yamamoto, Jennifer Igawa	2011/2/1	Kazamashobo	Parts 1, 2 and 4
著書	Osaka University Teaching Quality Handbook: A Guide to Best Practices in the Provision of Teaching and Assessment for Undergraduate Degree Programs	Beverley Yamamoto, Don Bysouth	2011/3/1	Osaka University	
国際会議 (proceedings あり)	International Marriage in Japan: An Exploration of Intimacy, Family and Parenthood	Beverley Anne Yamamoto	2010/12/1	18th Biennial Conference of the Asian Studies Association of Australia	
国際会議 (proceedings なし)	Women defining work:moving away from work life balance?	Beverley Anne Yamamoto	2010/6/1		
国際会議 (proceedings なし)	Militarized Masculinity as National Identity	Beverley Anne Yamamoto	2010/9/1		
国際会議 (proceedings なし)	Case Studies of International marriage in Japan: An intimate project unfolding through time	Beverley Anne Yamamoto	2010/9/1		
国際会議 (proceedings なし)	An Argument for Partial De-centralization of International Offices	Beverley Yamamoto	2010/11/1		

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 2 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 0 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 2 件、国際会議 0 件、会議報告 2 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	A cultural approach to recovery assistance following urban disasters	Shin Nakagawa and Koichi Suwa	2010/9/1	City, Culture and Society	1(1), 27-36
学術論文	Cross-Cultural Dimensions of Meaning in the Evaluation of Events in World History? Perceptions of Historical Calamities and Progress in Cross-Cultural Data From Thirty Societies	Liu, J. H. et.al.	2011/1/1	Journal of Cross-Cultural Psychology	(in press)
会議報告/口頭発表	グループ・ダイナミクス研究と固有名詞の関係に関する予備的考察	諏訪晃一	2010/8/1	日本グループ・ダイナミクス学会第 57 回大会発表論文集	60-61
会議報告/口頭発表	アクションリサーチとしての市民調査:市民調査のメタアクションリサーチに向けて	諏訪晃一	2010/9/1	日本心理学会第 74 回大会発表論文集 (CD-ROM)	CD-ROM
解説・総説	「知の地産地消」としての「市民調査」	諏訪晃一	2011/1/1	みみずく(市民活動センター神戸ニューズレター)	28, 4-5

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 0 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 0 名、留学生 0 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 4 件、国際会議 1 件、会議報告 2 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	低帯域高精細映像伝送方式による国際間遠隔学習	中澤明子, 松河秀哉, 奥林泰一郎, 森秀樹, 前迫孝憲	2010/12/1	日本教育工学会論文誌	34(Suppl.)
学術論文	国際間交流学習における交流方法の検討－Japan-USA Teen Talk Project を事例として	奥林泰一郎, 中澤明子, スペンス ゼオースキ, 前迫孝憲	2011/3/1	日本教育工学会研究報告集	JSET 11-1
学術論文	国際交流学習におけるマルチメディア利用とその課題－高校生へのアンケート調査から	奥林泰一郎, 中澤明子, ゼオースキ スペンス	2011/3/1	大阪大学教育学年報	16
学術論文	3 地点接続の「超鏡」を用いた遠隔学習の実施	中澤明子, 奥林泰一郎, 森秀樹, 中村優希, 前迫孝憲, 片岡佐知子, 松山豊樹, 中尾正博, 佐藤哲夫, 小川恵美子, 川杉照雄, 橋本剛正, 森川治	2011/3/1	日本教育工学会研究報告集	JSET 11-1
国際会議 (proceedings なし)	Digital Storytelling: Moodle Site Sets Students up for Successful Videoconferencing	Agnes Zaorski, Yoneda Kenzo, Takanori Maesako, Taichiro Okubayashi, Spence Zaorski	2010/6/1	The International Society for Technology in Education 2010	

分類(著書 ・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 ／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭 発表	動画とスライドショーを用いた国 際交流学習の実施	奥林泰一郎, 中澤明子, ス ペンス ゼオー スキ, 前迫孝憲	2010/9/1	日本教育工学 会第26回全国 大会講演論文 集	

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 21 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 3 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 1 名）、卒業研究指導学生数 7 名、留学生 1 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 2 件、国際会議 0 件、会議報告 6 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	知覚心理学は右肩上がりか、右肩下がりか	森川和則	2010/10/1	心理学ワールド	第 50 号、pp.5-8
学術論文	単純接触効果研究の動向と展望	富田瑛智・森川和則	2011/3/1	人間科学研究科紀要	第 37 巻、pp.361-373
会議報告/口頭発表	認知スタイルは視覚刺激の平均値を抽出する能力に影響するか	富田瑛智・前澤岳史・森川和則	2010/5/1	日本認知心理学会第8回大会発表論文集	P.106
会議報告/口頭発表	人はなぜ賭けるのか:ギャンブルにおける制御幻想・満足感・熱中感	森川和則・片岡咲	2010/5/1	日本認知心理学会第8回大会発表論文集	P.36
会議報告/口頭発表	長さ錯視における比較刺激の形状と位置の効果	松下戦具・富田瑛智・森川和則	2010/9/1	日本心理学会第 74 回大会発表論文集	P.552
会議報告/口頭発表	単純接触効果の平均顔への般化における刺激提示時間の効果	富田瑛智・森川和則	2010/9/1	日本心理学会第 74 回大会発表論文集	P.643
会議報告/口頭発表	髪型の小顔効果は本当?顔輪郭の遮蔽が顔の形状知覚に及ぼす影響	奥村和枝・森川和則	2010/10/1	日本顔学会誌	Vol.10, P.177
会議報告/口頭発表	顔の単純接触効果における目の寄与可能性	富田瑛智・森川和則	2010/11/1		

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 12 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 7 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 2 件、国際会議 0 件、会議報告 1 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ 講演 1 件 ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	Age influences visual attention characteristics among accident-free and accident-involved drivers	Kazuma Ishimatsu, Toshiaki Miura, Kazumitsu Shinohara	2010/9/1	Japanese Psychological Research	52,186-200
学術論文	注意の遠近移動特性と交通行動における安全性	木村貴彦, 三浦利章, 篠原一光, 土居俊一	2010/12/1	交通科学	41(1), 52-57
会議報告/口頭発表	テニス熟練者の予測技能-フェイントが含まれる事態での検討	内藤宏, 宮本晃希, 木村貴彦, 篠原一光, 三浦利章	2011/1/1	VISION	23 巻 1 号 p72
大学・研究所等の報告	経験を学ぶ:エラー防止教育プログラム開発のための基礎的研究	三浦利章, 篠原一光, 木村貴彦, 内藤宏	2011/3/1	平成22年度科学研究費補助金実績報告書(課題番号 20653053)	
その他	Development of Attention Networks(注意のネットワーク研究の展開)	Posner, M.I.(講演者), 三浦利章(企画者), 岩崎祥一(司会者)	2010/9/1	日本心理学会 第 74 回大会発表論文集	SL(5)

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
その他	注意研究の基礎的側面と実践的側面:注意と行為	三浦利章(企画者,司会者), 岩崎祥一(話題提供者), 熊田孝恒(話題提供者), 木村貴彦(話題提供者), 大橋智樹(話題提供者), Posner, M.I.(指定討論者), 一川誠(指定討論者)	2010/9/1	日本心理学会 第74回大会発表論文集	S(13)
その他	ロボット、人、こころ	芋阪満里子(企画者,司会者), 三浦利章(企画者), 石黒浩(話題提供者), 浅田稔(話題提供者), 眞下節(話題提供者), 岡ノ谷一夫(指定討論者), 蘆田宏(指定討論者), 大坊郁夫(指定討論者)	2010/9/1	日本心理学会 第74回大会発表論文集	S(2)
その他	自動車の研究開発と交通心理学	篠原一光(企画者,司会者), 木村貴彦(企画者), 関根道昭(話題提供者), 宇野宏(話題提供者), 石橋基範(話題提供者), 大本浩司(話題提供者), 高原美和(話題提供者), 三浦利章(指定討論者), 太田博雄(指定討論者)	2010/9/1	日本心理学会 第74回大会発表論文集	S(5)

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 18 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：
 後期課程 5 名、前期課程 5 名）、卒業研究指導学生数 7 名、留学生 0 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 4 件、国際会議 0 件、会議報告 3 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	Detailed analysis of distraction induced by in-vehicle verbal interactions on visual search performance	Kazumitsu Shinohara, Takahiro Nakamura, Seiji Tatsuta, Youichi Iba	2010/7/1	IATSS Research	34, 42-47
学術論文	Age influences visual attention characteristics among accident-free and accident-involved drivers	Kazuma Ishimatsu, Toshiaki Miura, Kazumitsu Shinohara	2010/9/1	Japanese Psychological Research	52,186-200
学術論文	注意の遠近移動特性と交通行動における安全性	木村貴彦, 三浦利章, 篠原一光, 土居俊一	2010/12/1	交通科学	41(1), 52-57
学術論文	高齢者と若年者による歩行所要時間評価に関する実験的研究	篠原一光	2011/3/1	交通科学	印刷中
会議報告/口頭発表	回答しやすい主観的メンタルワークロードチェックリストの作成とその妥当性の検証	篠原一光, 木村貴彦	2010/6/1	人間工学会 第 51 回大会 講演集	392-393
会議報告/口頭発表	マルチモーダル検出課題によるドライバの認知的負荷評価に関する研究	篠原一光, 嶋田淳, 若松正晴, 木村貴彦	2010/9/1	社団法人自動車技術会 学術講演会 前刷集	104-10,13-16
会議報告/口頭発表	テニス熟練者の予測技能-フェイントが含まれる事態での検討-	内藤宏, 宮本晃希, 木村貴彦, 篠原一光, 三浦利章	2011/1/1	VISION	23 巻 1 号 p72

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
大学・研究所等の報告	高齢歩行者の道路横断行動と道路横断所要時間の予測に関する実験的研究	篠原一光	2010/4/1	厚生労働科学研究費補助金労働安全衛生総合研究事業 加齢に伴う心身機能の変化と労働災害リスクに関する研究 平成21年度総括・分担研究報告書	17-29
解説・総説	高齢交通参加者	篠原一光	2011/3/1	交通科学	

所属： 行動学系 氏名： 内藤 宏

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 0 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 0 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 0 件、国際会議 0 件、会議報告 1 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	テニス熟練者の予測技能-フェイントが含まれる事態での検討 -	内藤宏, 宮本晃希, 木村貴彦, 篠原一光, 三浦利章	2011/1/1	VISION	23 巻 1 号 p72

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 12 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 3 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 4 名、前期課程 10 名、副指導教員：
 後期課程 2 名、前期課程 3 名）、卒業研究指導学生数 主5名 副7名、留学生 1 名、
 研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 4 件、学術論文 16 件、国際会議 3 件、会議報告 25 件、
 大学等の報告 1 件、解説・総説 2 件、書評 件、その他（ 講演 1 ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	感情と思考の科学事典	大坊郁夫(海保博之・松原望監修(竹村和久・北村英哉・住吉チカ編)	2010/4/1	朝倉書店	252-253, 254-255, 266-267.
著書	個人のなかの社会	大坊 郁夫(浦光博、北村英哉編)	2010/10/1	誠信書房	
学術論文	テーブル上における競争の側面を持つ協調作業	山口徳郎、スリラム・サブラマニアン、北村喜文、大坊郁夫、岸野文郎	2010/5/1	ヒューマンインタフェース学会論文誌	12,177-186
学術論文	社会的スキル・トレーニングにおける対人関係解説 - DESIREJ の作成に向けて -	大坊郁夫、横山ひとみ、磯友輝子、谷口淳一	2010/5/1	電子情報通信学会技術研究報告	110(33), 85-90.
学術論文	社会的スキルとしての対人コミュニケーション認知メカニズムの検討	木村昌紀、大坊郁夫、余語真夫	2010/8/1	社会心理学研究	26(1), 13-24.
学術論文	対人コミュニケーションとスポーツ	大坊郁夫	2010/9/1	体育の科学	60 巻 698-602
学術論文	中高年者における自伝的物語と親密な関係内での適応性の関連—人生の重要な出来事に対する解釈の仕方—	上出寛子、大坊郁夫	2011/3/1	対人社会心理学研究	11, 51-63
学術論文	Well-being を高めるために、対人コミュニケーションを活かすために	大坊郁夫	2011/3/1	対人社会心理学研究	11, 29-32.

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	大学生における化粧行動と主観的幸福感に関する日韓比較研究	金 聡希、大坊郁夫	2011/3/1	対人社会心理学研究	11, 89-100.
会議報告/口頭発表	関係、場を活性化するコミュニケーションの展開	大坊郁夫	2010/11/1	13 回知識科学シンポジウム「メディア技術によるソーシャルリアリティ創出」予稿集	21-35.

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 19 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 0 件、副査 5 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 3 名、副指導教員：後期課程 4 名、前期課程 10 名）、卒業研究指導学生数 21 名、留学生 0 名、研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 0 件、国際会議 1 件、会議報告 7 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 4 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	感情と思考の科学事典	釘原直樹(海保博之他編)	2010/4/1	朝倉書店	
著書	グループ・ダイナミクス 集団と群集の心理	釘原直樹	2011/3/1	有斐閣	
会議報告/口頭発表	マスコミが対象とするスケープゴートの変遷(17) 新型インフルエンザについてのリアルタイム評価	釘原直樹、植村善太郎、村上幸史、阿形亜子	2010/9/1		
会議報告/口頭発表	殺人、災害、テロなどのネガティブな社会事象の報道と人々の認識	釘原直樹	2010/9/1		
会議報告/口頭発表	マスコミが対象とするスケープゴートの変遷(18) 大事故報道での非難対象に対する一般人の帰属	植村善太郎、村上幸史、阿形亜子、釘原直樹	2010/9/1		
会議報告/口頭発表	Effects of affective valence of rare events on overestimation of frequency judgment.	Naoki Kugihara	2010/12/1		
解説・総説	どっちが正しい？ 異常時の「理性モデル」と「非理性モデル」=パニックと避難行動(中)	釘原直樹	2010/6/1	防災リスクマネジメント Web 欄	
解説・総説	意外に多い常識のワナ=災害や危機時のココロの働き	釘原直樹	2010/6/1	防災リスクマネジメント Web 欄	
解説・総説	どっちが正しい？ 異常時の「理性モデル」と「非理性モデル」=パニックと避難行動(上)	釘原直樹	2010/6/1	防災リスクマネジメント Web 欄	
解説・総説	どっちが正しい？ 異常時の「理性モデル」と「非理性モデル」=パニックと避難行動(下)	釘原直樹	2010/7/1	防災リスクマネジメント Web 欄	

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 2 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 0 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 0 件、国際会議 2 件、会議報告 3 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
国際会議 (proceedings あり)	Interpersonal communication of Chinese people across situations: The study focused on dyadic interaction by strangers	Masanori Kimura & Xinhua MAO	2011/1/1	12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology	pp.112
国際会議 (proceedings あり)	Why are Chinese students in Japan distressed in their interpersonal relationships with Japanese?	Xinhua MAO	2011/1/1	12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology	pp.112
会議報告/口頭発表	在日中国人学生の抱える文化適応の問題点—対人関係の自由記述調査のデータより—	毛 新華	2010/9/1	日本社会心理学会第 51 回大会発表論文集	pp.682-683
会議報告/口頭発表	中国人の対人コミュニケーションに関する基礎的研究—未知関係の女性大学生を対象にして—	木村昌紀・毛新華	2010/9/1	日本社会心理学会第 51 回大会発表論文集	pp.744-745
会議報告/口頭発表	中国人の対人コミュニケーションに関する基礎的研究—友人関係の女性大学生を対象にした会話実験による検討—	木村昌紀・毛新華	2010/11/1	関西心理学会第 122 回大会発表論文集	pp.61

(4) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2010/10/1	毛 新華	大阪大学飛翔研究フェロー	大阪大学

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 12 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 1 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 10 名、前期課程 4 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 5 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 3 件、学術論文 5 件、国際会議 0 件、会議報告 8 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	メガホリズム(過組織症)—組織に巣食う原罪—	佐藤眞一・本多—ハワード素子(著)	2010/4/1	阪急コミュニケーションズ	
著書	老いとこころのケア—老年行動科学入門—	佐藤眞一・大川一郎・谷口幸一(編)	2010/7/1	ミネルヴァ書房	
著書	調査・事例研究から読み解く高齢者の心と体 ケアに生かす Q&A	佐藤眞一(編)	2010/12/1	日本看護協会出版会	
著書	高齢社会の「生・活」事典	生活・福祉環境づくり 21・日本応用老年学会編	2011/1/1	社会保険出版社	
学術論文	応用老年行動学の意義と目的	佐藤眞一	2010/5/1	応用老年学	4(1), 4-12.
学術論文	老年行動科学と高齢者ケアの実践	佐藤眞一	2010/12/1	コミュニティケア	12(14), 5-9.
学術論文	百寿者介護へのソーシャル・サポート—三者モデルによる考察—	島内 晶・佐藤眞一・権藤恭之・増井幸恵・稲垣宏樹・広瀬信義	2010/12/1	高齢者のケアと行動科学	15 巻, 34-47 頁
学術論文	高齢者の自動車運転の背景としての心理特性	佐藤眞一・島内晶	2011/2/1	国際交通安全学会誌	35 巻 3 号
会議報告/口頭発表	高齢者ケアに対する心理学からのアプローチ(ワークショップ)	佐藤眞一	2010/9/1	日本心理学会第 74 回大会発表論文集	WS(33)
会議報告/口頭発表	高齢者における記憶の失敗とメタ記憶の関連性—記憶の自信度(メタ記憶)が虚偽記憶に及ぼす影響—	島内 晶・佐藤眞一	2010/9/1	日本心理学会第 74 回大会発表論文集	p.843

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	超高齢社会に心理学はいかに貢献できるか(シンポジウム)	佐藤眞一	2010/9/1	日本心理学会 第74回大会発表論文集	
会議報告/口頭発表	食の生涯発達と心理学(ワークショップ)	佐藤眞一	2010/9/1	日本心理学会 第74回大会発表論文集	WS(10)
会議報告/口頭発表	メタ記憶の個人差および年齢差と記憶成績の関連—高齢者と若年者を対象とした再認成績の比較—	島内 晶・佐藤眞一	2010/9/1		
会議報告/口頭発表	【基調講演】行動科学と高齢者ケア—老年行動科学の意義と役割—	佐藤眞一	2010/9/1		
その他	運転を止めない高齢者の心理特性とその解決法	佐藤眞一	2010/10/1	自動車学校	49(10), 23-26

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 22 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 0 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 7 名、前期課程 4 名）、卒業研究指導学生数 5 名、留学生 名、研究生 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 7 件、国際会議 10 件、会議報告 17 件、大学等の報告 2 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	現代の認知心理学7 認知の個人差	権藤恭之・石岡良子	2011/3/1	北大路書房	高齢者の生活環境, ライフスタイルと認知機能
学術論文	心理的 well-being が高い虚弱超高齢者における老年的超越の特徴 — 新しく開発した日本版老年的超越質問紙を用いて —	増井幸恵, 権藤恭之, 河合千恵子, 呉田陽一, 高山緑, 中川 威, 高橋龍太郎, 藺牟田洋美	2010/4/1	老年社会科学	32(1):33-47
学術論文	The Tokyo Oldest Old Survey on Total Health (TOOTH): A longitudinal cohort study of multidimensional components of health and well-being	Arai Y, Iinuma T, Takayama M, Takayama M, Abe Y, Fukuda R, Ando J, Ohta K, Hanabusa H, Asakura K, Nishiwaki Y, Gondo Y, Akiyama H, Komiyama K, Gionhaku N, Hirose N.	2010/6/1		10; 35
学術論文	Reliability and validity of the Prospective and Retrospective Memory Questionnaire (PRMQ) in young and old people: A Japanese study	Gondo, Y., Renge, N., Ishioka, Y., Kurokawa, I., Ueno, D., Rendell, P.	2010/9/1	Japanese Psychological Research	52(3)175-185

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	百寿者介護へのソーシャル・サポート—三者モデルによる考察—	島内 晶・佐藤眞一・権藤恭之・増井幸恵・稲垣宏樹・広瀬信義	2010/12/1	高齢者のケアと行動科学	15 巻, 34-47 頁
学術論文	超高齢者の語りにみる生 (life) の意味	中川 威, 増井幸恵, 呉田陽一, 高山 緑, 高橋龍太郎, 権藤恭之	2011/1/1	老年社会科学	32-4, 422-433
解説・総説	高齢者研究の現状と臨床発達心理学の役割	権藤恭之	2010/7/1	臨床発達心理実践研究	5; 43-50

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 8 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 件）、修士（主査 件、副査 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 名、前期課程 名、副指導教員：後期課程 名、前期課程 1 名）、卒業研究指導学生数 5 名、留学生 名、研究生 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 9 件、国際会議 1 件、会議報告 16 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 2 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	がんの統合治療	伊藤壽記、上島悦子監訳 平井啓 他 訳	2010/9/1	メディカル・サイエンス・インターナショナル	
学術論文	Physical activity and psychological adjustment in Japanese advanced lung cancer patients in chemotherapy: The feasibility of intervention.	Arai H, Hirai K, Harada K, and Tokoro A.	2010/4/1	International Journal of Sport and Health Science	8(0), 15-21
学術論文	A qualitative study of decision-making by breast cancer patients about telling their children about their illness	Yoshida S, Otani H, Hirai K, et al	2010/4/1	Support Care Cancer	18 439-447
学術論文	Value of religious care for relief of psycho-existential suffering in Japanese terminally ill cancer patients: the perspective of bereaved family members	Ando M, Morita T, Hirai K, Miyashita M, et al.	2010/7/1	Psychooncology	
学術論文	肺結核患者におけるマスク着用行動の変容ステージとその関連要因	荒井弘和, 所昭宏, 平井啓, 野長さおり, 小林博美, 井上垂由美, 上砂陽子, 田中孝浩	2010/7/1	心身医学	50, 667-90
学術論文	Development of a Japanese Benefit Finding Scale (JBFS) for Patients With Cancer.	Ando M, Morita T, Hirai K, Akechi T, Kira H, Ogasawara E, Jingu K.	2010/9/1		

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	A survey of disclosure of diagnosis to patients with glioma in Japan.	Yamamoto F, Hashimoto N, Kagawa N, Okita Y, Chiba Y, Kijima N, Kinoshita M, Yoshizu K, Fujimoto Y, Hirai K, Yoshimine T.	2010/12/1		
学術論文	Experience of Families of Japanese Patients with Cancer for Prognostic Disclosure.	Yoshida S, Hirai K, Morita T, Shiozaki M, Miyashita M, Sato K, Tsuneto S, Shima Y.	2010/12/1		
学術論文	主治医による死亡確認や臨終の立ち会いが、家族の心理に及ぼす影響についての調査研究	新城拓也, 森田達也, 平井 啓, 宮下光令, 佐藤一樹, 恒藤暁, 志真泰夫	2010/12/1	Palliative care research	5(1)162-170
学術論文	乳がん検診に対する態度の測定	関愛子, 平井啓, 長塚美和, 原田和宏, 狭間礼子, 石川善樹, 濱島ちさと, 斉藤博, 渋谷大助	2011/2/1	厚生 の 指標	58 (2)
解説・総説	がん患者に対する問題解決療法とは？	平井 啓	2011/1/1	がん患者ケア	1・2月号 48-52
解説・総説	がん緩和ケアの領域における認知行動療法	平井 啓	2011/2/1	精神療法	37 (1) 82-4

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 19 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 2 件、副査 0 件）、修士（主査 3 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 3 名、前期課程 5 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 1 名）、学部生 19 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 研究生 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 4 件、国際会議 8 件、会議報告 16 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	リスクテイキング行動尺度の作成と信頼性・妥当性の検討	森泉慎吾・臼井伸之介・中井宏	2010/4/1	交通科学	40(2), 135-136
学術論文	リスクテイキング行動尺度作成の試み—信頼性・妥当性の検討—	森泉慎吾, 臼井伸之介	2010/6/1	労働科学	Vol.86(3), 127-138
学術論文	違反に対する潜在的態度測定 の試み—Implicit Association Test を用いて—	安達悠子, 臼井伸之介	2010/8/1	労働科学	Vol.86(4), 193-207
学術論文	医師及び他の看護師との関係における対人ストレスが看護師のバーンアウトに及ぼす影響	松本友一郎・臼井伸之介	2010/11/1	応用心理学研究	Vol.36, No.1, 1-12
国際会議 (proceedings なし)	Influence of Cognitive Bias on Young Cyclists' Road Crossing Intentions at Non-Signalized Intersections	Yasunori KINOSADA & Shinnosuke USUI	2010/7/1		CD-ROM
国際会議 (proceedings なし)	Differences in risk perception among nurses based on experience	Yuko ADACHI & Shinnosuke USUI	2010/7/1		CD-ROM
国際会議 (proceedings なし)	Situational and Gender Consistency of Risk-Taking Behavior in Daily Life	Shingo MORIIZUMI & Shinnosuke USUI	2010/7/1		CD-ROM
国際会議 (proceedings なし)	A comparison between the self-assessed and instructor-assessed driving skills of a sample of Japanese driving school students	Hiroshi NAKAI & Shinnosuke USUI	2010/7/1		CD-ROM

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
国際会議 (proceedings なし)	Influences of Career as a Nurse and Status in a Clinical Unit on Interpersonal Stressors of Japanese Hospital Nurses	T. MATSUMOTO & S. USUI	2010/7/1	27th International Congress of Applied Psychology	CD-ROM
国際会議 (proceedings なし)	Differences in driving behaviours between elderly drivers and middle-aged drivers at intersections	Nozomi Renge, Masahiro Tada, Kazumi Renge, Shinnosuke Usui	2010/7/1		CD-ROM
国際会議 (proceedings なし)	Assessing the Effect of Safety Training Through a Human-Error-Experience Program	Shinnosuke USUI & Kazushige WADA	2010/7/1		CD-ROM
国際会議 (proceedings なし)	Accuracy of self-assessed driving skills of driver candidates in Japan	Hiroshi NAKAI & Shinnosuke USUI	2010/8/1		
会議報告/口頭発表	看護業務における違反への潜在的態度測定を試み	安達悠子・臼井伸之介	2010/5/1	日本認知心理学会第8回大会発表論文集	30
会議報告/口頭発表	無線連絡受信後の鉄道運転士の注意特性	上田真由子, 久保田敏裕, 沖覚, 臼井伸之介	2010/5/1	日本認知心理学会第8回大会発表論文集	26
会議報告/口頭発表	教習生の個人属性と自己評価スキルの関連	中井 宏・臼井伸之介・藤井秀朗・谷川幸男	2010/6/1	日本交通心理学会第75回大会発表論文集	
会議報告/口頭発表	キーボードの配色が文字入力速度と美的評価に及ぼす影響	羽田裕哉・臼井伸之介	2010/6/1	人間工学会第51回大会発表論文集	364~365
会議報告/口頭発表	認知バイアスがサイクリストの無信号交差点横断 意図に及ぼす影響	紀ノ定保礼・臼井伸之介	2010/6/1	日本交通心理学会第75回大会発表論文集	83-86
会議報告/口頭発表	違反への態度に関する場面一貫性の検討	安達悠子・臼井伸之介	2010/6/1	日本人間工学会第51回大会講演集	132-133
会議報告/口頭発表	台形ハンプの速度抑制効果に関する縦断的研究	中井 宏・臼井伸之介	2010/6/1	日本人間工学会第51回大会講演集	200-201
会議報告/口頭発表	船舶の大きさによる許容船間距離の差異	瀧 真輝・臼井伸之介・藤本昌志・広野康平・持田高德	2010/6/1	日本人間工学会第51回大会講演集	144-145
会議報告/口頭発表	運転暴露に関する高齢ドライバーと中年ドライバーの比較	蓮花のぞみ・多田昌裕・蓮花一己・臼井伸之介	2010/6/1	日本交通心理学会第75回大会発表論文集	49-52
会議報告/口頭発表	看護師の職務葛藤場面における対処方略の違いが対人ストレスサー及びバーンアウトに及ぼす影響	松本友一郎・臼井伸之介	2010/9/1	日本応用心理学会第77回大会発表論文集	p135

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	原付、二輪、四輪の免許取得順と運転技能の関連	中井 宏・臼井伸之介	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	1254
会議報告/口頭発表	視覚探索課題に対する持続的聴覚刺激の影響	武市尚大・臼井伸之介	2010/11/1	関西心理学会第122回大会発表論文集	53
会議報告/口頭発表	大学における化学薬品飛散事故の実態と保護具非着用の背景要因	太刀掛利之、山本仁、臼井伸之介	2010/12/1	平成22年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集	119-120
会議報告/口頭発表	リスク傾向と交通違反経験との関連	森泉慎吾・臼井伸之介	2010/12/1	平成22年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集	107-110
会議報告/口頭発表	無線連絡受信後における鉄道運転士の注意特性 — 運転経験年数別による検討 —	上田真由子, 久保田敏裕, 沖覚, 臼井伸之介	2010/12/1	平成22年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集	111-114

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 16 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 1 名）、卒業研究指導学生数 0 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 1 件、国際会議 1 件、会議報告 3 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	Gender acceptance and Menarche	T. HINOBAYASHI, K. YAMADA, M. KATO, S. AKAI, T. KANAZAWA, T. MINAMI & N. ITOIGAWA	2010/9/1	Zukauskienė, R. (Ed.) Proceedings of the 14th European Conference on Developmental Psychology. Pianoro: Medimond.	7-10.
国際会議 (proceedings なし)	The secular trends of menarcheal age among Japanese schoolgirls	T. HINOBAYASHI, S. AKAI, T. KANAZAWA, T. MINAMI, N. ITOIGAWA	2010/7/1		
会議報告/口頭発表	5-6 歳齢保育園児の向社会的行動のやり取り	加藤真由子 大西賢治 金澤忠博 日野林俊彦 南 徹弘	2010/9/1	日本心理学会 第 74 回大会発表論文集	1102
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の心理・行動 その 60. 多胎児の精神発達と行動問題	金澤忠博・安田純・北村真知子・加藤真由子・日野林俊彦・南 徹弘・北島博之・藤村正哲	2010/9/1	日本心理学会 第 74 回大会発表論文集	1002
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の心理・行動 その 62. 多胎児の気質	安田 純・金澤忠博・北村真知子・加藤真由子・日野林俊彦・南 徹弘・北島博之・藤村正哲	2010/9/1	日本心理学会 第 74 回大会発表論文集	1004

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の心理・行動 その63. 動的家族画に見られる超低出生体重児の特徴	北村真知子・金澤忠博・安田純・加藤真由子・日野林俊彦・南 徹弘・北島博之・藤村正哲	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	1005
会議報告/口頭発表	発達加速現象の研究・その24－初潮年齢に見られる地域差の動向－	日野林俊彦・山田一憲・加藤真由子・安田 純・金澤忠博・赤井誠生・南 徹弘	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	1055
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の心理・行動 その61. 家庭環境と子どもの愛着スタイル	鎌田次郎・金澤忠博・日野林俊彦・南 徹弘・北島博之・藤村正哲	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	1003
会議報告/口頭発表	5-6歳齢保育園児における向社会的なやり取りで働く対人評価	加藤真由子 大西賢治 金澤忠博 日野林俊彦 南 徹弘	2011/3/1	日本発達心理学会第22回大会論文集	292
会議報告/口頭発表	発達障害のある超低出生体重児の行動評定～発達障害と行動問題の関係～	金澤忠博・安田純・加藤真由子・鎌田次郎・日野林俊彦・南 徹弘・北島博之・藤村正哲・糸魚川直祐	2011/3/1	日本発達心理学会第22回大会論文集	403
会議報告/口頭発表	女子思春期における興味の変化と初潮の関わり	日野林俊彦・加藤真由子・金澤忠博・南 徹弘・糸魚川直祐	2011/3/1	日本発達心理学会第22回大会論文集	236
会議報告/口頭発表	母親にたたかれる子どもの気質と愛着 超低出生体重児の学齢期における調査から	鎌田次郎・金澤忠博・安田 純・日野林俊彦・南 徹弘・糸魚川直祐	2011/3/1	日本発達心理学会第22回大会論文集	257
その他	思春期と環境－発達加速現象の視点－	日野林俊彦	2010/5/1	こころん	6
その他	思春期と環境－発達加速現象の視点－	日野林俊彦	2010/8/1	成長科学協会年報	33, 229-232

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 17 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 1 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 2 名、留学生 0 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 1 件、国際会議 2 件、会議報告 11 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	Gender acceptance and Menarche	T. HINOYASHI, K. YAMADA, M. KATO, S. AKAI, T. KANAZAWA, T. MINAMI & N. ITOIGAWA	2010/9/1	Zukauskienė, R. (Ed.) Proceedings of the 14th European Conference on Developmental Psychology. Pianoro: Medimond.	7-10.
国際会議 (proceedings なし)	Early precursors of developmental disorders for very low birth weight infants at one-and-a-half years of corrected age to predict school age outcome in Japan.	Kanazawa, T., Kitajima, H., Yamamoto, E., Koseira, Y., Fujimura, M., & Itoigawa, N.	2010/5/1	Abstracts of Pediatric Academic Societies' 2010 Annual Meeting, Vancouver, Canada.	
国際会議 (proceedings なし)	The secular trends of menarcheal age among Japanese schoolgirls	T.HINOYASHI, S.AKAI, T.KANAZAWA, T.MINAMI, N.ITOIGAWA	2010/7/1		
会議報告/口頭発表	発達加速現象の研究・その24—初潮年齢に見られる地域差の動向—	日野林俊彦・山田一憲・加藤真由子・安田 純・金澤忠博・赤井誠生・南 徹弘	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	1055

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の心理・行動 その62. 多胎児の気質	安田 純・金澤忠博・北村真知子・加藤真由子・日野林俊彦・南 徹弘・北島博之・藤村正哲	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	1004
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の心理・行動 その63. 動的家族画に見られる超低出生体重児の特徴	北村真知子・金澤忠博・安田 純・加藤真由子・日野林俊彦・南 徹弘・北島博之・藤村正哲	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	1005
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の心理・行動 その60. 多胎児の精神発達と行動問題	金澤忠博・安田 純・北村真知子・加藤真由子・日野林俊彦・南 徹弘・北島博之・藤村正哲	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	1002
会議報告/口頭発表	5-6歳齢保育園児の向社会的行動のやり取り	加藤真由子 大西賢治 金澤忠博 日野林俊彦 南徹弘	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	1102
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の心理・行動 その61. 家庭環境と子どもの愛着スタイル	鎌田次郎・金澤忠博・日野林俊彦・南 徹弘・北島博之・藤村正哲	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	1003
会議報告/口頭発表	多胎の超低出生体重児の学齢期における精神発達と行動問題	金澤忠博・北村真知子・北島博之・藤村正哲	2010/10/1	日本未熟児新生児学会雑誌	22(3): 268.
会議報告/口頭発表	母親にたたかれる子どもの気質と愛着 超低出生体重児の学齢期における調査から	鎌田次郎・金澤忠博・安田 純・日野林俊彦・南 徹弘・糸魚川直祐	2011/3/1	日本発達心理学会第22回大会論文集	257
会議報告/口頭発表	発達障害のある超低出生体重児の行動評定～発達障害と行動問題の関係～	金澤忠博・安田 純・加藤真由子・鎌田次郎・日野林俊彦・南 徹弘・北島博之・藤村正哲・糸魚川直祐	2011/3/1	日本発達心理学会第22回大会論文集	403
会議報告/口頭発表	女子思春期における興味の変化と初潮の関わり	日野林俊彦・加藤真由子・金澤忠博・南 徹弘・糸魚川直祐	2011/3/1	日本発達心理学会第22回大会論文集	236
会議報告/口頭発表	5-6歳齢保育園児における向社会的なやり取りで働く対人評価	加藤真由子 大西賢治 金澤忠博 日野林俊彦 南徹弘	2011/3/1	日本発達心理学会第22回大会論文集	292

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 2 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 0 名、留学生 0 名、
 研究生 0 名、その他（)

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 3 件、国際会議 2 件、会議報告 6 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（)

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	Old grandmothers provide essential care to their young grandchildren in a free-ranging group of Japanese monkeys (<i>Macaca fuscata</i>).	NAKAMICHI M., ONISHI K., & YAMADA K.	2010/4/1	Primates	51: 171-174.
学術論文	ニホンザルによるムササビへの攻撃反応	大西賢治, 山田一憲, 中道正之	2010/7/1	霊長類研究	26: 35-49.
学術論文	Maternal infant monitoring in a free-ranging group of Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>)	ONISHI K. & NAKAMICHI M.	2011/2/1	International Journal of Primatology	32: 209-222.
国際会議 (proceedings あり)	Maternal visual monitoring in Japanese macaques: Allocation of maternal investment in infant protection.	ONISHI K. & NAKAMICHI M.	2010/9/1	Primate Research	26: 242.
国際会議 (proceedings あり)	Parental investments and demands of infants (as symposium organizers).	YAMADA K. & ONISHI K.	2010/9/1	Primate Research	26:241
国際会議 (proceedings なし)	General discussion (as symposium organizers)	K. ONISHI & K. YAMADA	2010/9/1	The 23TH congress of the International Primatological Society (IPS)	P38
会議報告/口頭発表	餌付け集団の1歳齢子ザルにおける母の子育てスタイルと子の社会的相互交渉	鋤納有実子 大西賢治 中道正之	2010/6/1		
会議報告/口頭発表	母子が離れた場面におけるニホンザル母子の相互交渉	大西賢治	2010/6/1		
会議報告/口頭発表	餌付けニホンザル集団の1歳齢子ザルにおける母の子育てスタイルと子の社会的相互交渉	鋤納有実子 大西賢治 中道正之	2010/8/1	動物心理学研究	60: 168.

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	5-6 歳齡保育園児の向社会的行動のやり取り	加藤真由子 大西賢治 金澤忠博 日野林俊彦 南 徹弘	2010/9/1	日本心理学会第 74 回大会発表論文集	1102
会議報告/口頭発表	5-6 歳齡保育園児における向社会的なやり取りで働く対人評価	加藤真由子 大西賢治 金澤忠博 日野林俊彦 南 徹弘	2011/3/1	日本発達心理学会第 22 回大会論文集	292
会議報告/口頭発表	母ザルの子育てスタイルと子ザルの鳴き	大西賢治	2011/3/1	日本発達心理学会第 22 回大会論文集	438

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 21 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 3 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 7 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 2 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 5 件、国際会議 0 件、会議報告 11 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 1 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	味覚嫌悪学習の想起における扁桃体基底外側核の GABA 伝達の関与	梶川英実子、乾 賢、八十島安伸、志村 剛	2010/12/1	日本味と匂学会誌	17: 259-262
学術論文	味覚嫌悪学習の想起によって活性化する扁桃体基底外側核の遠心性投射路:マンガン造影 MRI 法による解析	乾 千珠子, 乾 賢, 大澤五住, 上田甲寅, 岩井康智, 志村剛, 吉岡芳親	2010/12/1	日本味と匂学会誌	17 (3): 305-308
学術論文	ラット腹側淡蒼球への GABA 受容体アゴニスト投与による味覚反応の発現メカニズム	乾 賢, 志村剛	2010/12/1	日本味と匂学会誌	17 (3): 263-266
学術論文	ミダゾラムによる味覚嫌悪学習の想起障害	八十島安伸、志村 剛	2010/12/1	日本味と匂学会誌	17: 241-242
学術論文	Activation of projective neurons from the nucleus accumbens to ventral pallidum by a learned aversive taste stimulus in rats: a manganese-enhanced magnetic resonance imaging study.	Inui T, Inui-Yamamoto C, Yoshioka Y, Ohzawa I, Shimura T	2011/2/1	Neuroscience	177:66-73
大学・研究所等の報告	食行動を調節する嗜好性および嫌悪性情動発現の脳機構	志村 剛	2011/3/1	浦上財団研究報告書	18:110-115
解説・総説	食物摂取行動を調節する情動性神経回路	篠原祐平, 志村 剛	2011/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	37:341-359

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： _____ 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 0 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 2 名、前期課程 8 名）、卒業研究指導学生数 2 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ _____ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 2 件、国際会議 1 件、会議報告 8 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（ _____ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	味覚嫌悪学習の想起における扁桃体基底外側核の GABA 伝達の関与	梶川英実子、乾 賢、八十島安伸、志村 剛	2010/12/1	日本味と匂学会誌	17: 259-262
学術論文	ミダゾラムによる味覚嫌悪学習の想起障害	八十島安伸、志村 剛	2010/12/1	日本味と匂学会誌	17: 241-242
国際会議 (proceedings なし)	Midbrain mechanisms for binge-type overconsumption of sugar in mice: change of ghrelin-related signaling	Yasunobu Yasoshima, Megumi Tanibuchi, Tadashi Inui, Tsuyoshi Shimura	2010/11/1	Abstract of The 8th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception (YR Umami Forum 2010)	
会議報告/口頭発表	甘味溶液の過剰摂取行動における腹側被蓋野グレリンシグナルの役割	谷渕めぐみ、八十島安伸、乾 賢、志村剛	2010/9/1	Neuroscience Research	68 Suppl 1: e398
会議報告/口頭発表	甘味溶液の過剰摂取行動における背側中枢味覚伝導路の役割	八十島安伸、谷渕めぐみ、志村剛	2010/9/1	Neuroscience Research	68 Suppl 1: e398
会議報告/口頭発表	グレリンによる高嗜好性甘味溶液の過剰摂取行動の制御	谷渕めぐみ、八十島安伸、志村剛	2011/3/1	Journal of Physiological Sciences	
会議報告/口頭発表	高嗜好性甘味溶液の過剰摂取行動における島皮質領域の役割	八十島安伸、谷渕めぐみ、志村剛	2011/3/1	Journal of Physiological Sciences	

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	制限給餌下のマウスにおける体重増加による甘味嗜好性抑制の神経性制御メカニズム	大久保理沙、北沢美穂、松川隆俊、藤原宏子、佐藤亮平、八十島安伸、宮本武典	2011/3/1	Journal of Physiological Sciences	
会議報告/口頭発表	PRIP-1/2 ダブルノックアウトマウスにおける雌性選択的な味覚嗜好性の変化	梶川芙美子、八十島安伸、兼松隆、平田雅人、志村剛	2011/3/1	Journal of Physiological Sciences	

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 0 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 2 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 5 件、国際会議 0 件、会議報告 4 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	The brain mapping of the retrieval of conditioned taste aversion memory using manganese-enhanced magnetic resonance imaging in rats.	Inui-Yamamoto C, Yoshioka Y, Inui T, Sasaki KS, Ooi Y, Ueda K, Seiyama A, Ohzawa I.	2010/5/1	Neuroscience	167(2), 199-204
学術論文	味覚嫌悪学習の想起における扁桃体基底外側核の GABA 伝達の関与	梶川英実子・乾賢・八十島安伸・志村剛	2010/12/1	日本味と匂学会誌	17(3), 259-262
学術論文	味覚嫌悪学習の想起によって活性化する扁桃体基底外側核の遠心性投射路：マンガン造影 MRI 法による解析	乾千珠子・乾賢・大澤五住・上田甲寅・岩井康智・志村剛・吉岡芳親	2010/12/1	日本味と匂学会誌	17(3), 305-308
学術論文	ラット腹側淡蒼球への GABAA 受容体アゴニスト投与による味覚反応の発現メカニズム	乾賢・志村剛	2010/12/1	日本味と匂学会誌	17(3), 263-266
学術論文	Activation of projective neurons from the nucleus accumbens to ventral pallidum by a learned aversive taste stimulus in rats: a manganese-enhanced magnetic resonance imaging study.	Inui T, Inui-Yamamoto C, Yoshioka Y, Ohzawa I, Shimura T	2011/2/1	Neuroscience	177: 66-73

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	Activation of projective neurons from the nucleus accumbens to ventral pallidum by a learned aversive taste stimulus in rats: a manganese-enhanced magnetic resonance imaging study	Inui T, Inui-Yamamoto C, Yoshioka Y, Ohzawa I, Shimura T.	2011/3/1	Neuroscience	177, 66-73

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 15 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 3 件、副査 1 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 4 名、副指導教員：後期課程 1 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 4 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（なし）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 2 件、国際会議 5 件、会議報告 7 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ 0 ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	Constrained principal component analysis of standardized data for biplots with unit-length variable vectors	Kohei Adachi	2011/3/1	Advances in Data Analysis and Classification	Vol. 5, No. 1, Pp. 23-36
国際会議 (proceedings あり)	Singular Value Reparameterization with Its Applications to Rank Preserving Computation, Procrustes Transformation, and Factor Analysis	Kohei Adachi	2010/6/1	Proceedings of the 19th International Workshop on Matrices and Statistics	p. 29
国際会議 (proceedings あり)	A constrained condition-number LS algorithm with its applications to reverse component analysis and generalized oblique Procrustes rotation	Kohei Adachi	2010/8/1	19th Symposium of IASC on Computational Statistics (COMPSAT 2010): Abstracts	392
国際会議 (proceedings あり)	A Factor Analysis Procedure for Jointly Estimating Factors, Loadings, and Specificities	Kohei Adachi	2010/10/1	第 10 回中国日本統計シンポジウム論文集	pp. 5-9
国際会議 (proceedings なし)	A New Formulation of Factor Analysis with Fixed Common and Specific Factors	Kohei Adachi	2010/7/1	The 75th Meeting of Psychometric Society	

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
国際会議 (proceedings なし)	Singular Value Reparameterization with Its Applications to Least Squares Computations	Kohei Adachi	2010/12/1	3rd International Conference on COMPUTING & STATISTICS (ERCIM'10)	
会議報告/口頭発表	PCA の基礎: 幾種かの最小二乗行列近似による PCA の定式化	足立浩平	2010/9/1	「データ縮約のトレンドを追うーPCAとSDAー」ワークショップ	
会議報告/口頭発表	PCA の 3 種の拡張: 非計量 PCA(数量化)と三相 PCA と因子分析	足立浩平	2010/9/1	「データ縮約のトレンドを追うーPCAとSDAー」ワークショップ	

所属： 行動学系 氏名： 宮本 友介

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 6 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 件）、修士（主査 件、副査 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 名、前期課程 名、副指導教員：後期課程 名、前期課程 名）、卒業研究指導学生数 名、留学生 名、研究生 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 件、学術論文 件、国際会議 件、会議報告 1 件、大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	斜交プロマックス回転における因子間相関の制約について	宮本 友介	2010/8/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	p. 461

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 20 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 1 件）、修士（主査 1 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名、副指導教員：後期課程 1 名、前期課程 3 名）、卒業研究指導学生数 1 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 1 件、国際会議 0 件、会議報告 8 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	働態研究の方法	人類働態学会	2010/6/1	人類働態学会	
学術論文	Palmar and plantar pressure while walking on a horizontal ladder and single pole in <i>Macaca fuscata</i>	HIGURASHI Yasuo, HIRASAKI Eishi, KUMAKURA Hiroo	2010/4/1	International Journal of Primatology	31: 181-190
学術論文	Brief communication: Dynamic plantar pressure distribution during locomotion in Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>)	HIRASAKI Eishi, HIGURASHI Yasuo, KUMAKURA Hiroo	2010/5/1	American Journal of Physical Anthropology	142: 149-156
学術論文	Brief communication: Three-dimensional motion analysis of hindlimb during brachiation in a white-handed gibbon (<i>Hylobates lar</i>)	OKA Kenji, HIRASAKI Eishi, HIROKAWA Yohko, Yosihhiko NAKANO, KUMAKURA Hiroo	2010/8/1	American Journal of Physical Anthropology	142(3):650-654
会議報告/口頭発表	写真計測による三次元筋配置の定量について	後藤遼佑、岡健司、熊倉博雄	2010/10/1	第 64 回日本人類学会大会	
会議報告/口頭発表	ニホンザルの4足歩行時における体肢の強調運動と歩行速度	日暮泰男、中野良彦、熊倉博雄	2010/11/1	第31回バイオメカニズム学術講演会予稿集	85

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 10 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 3 名）、卒業研究指導学生数 1 名、留学生 0 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 1 件、国際会議 1 件、会議報告 2 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	Brief communication: Three-dimensional motion analysis of hindlimb during brachiation in a white-handed gibbon (<i>Hylobates lar</i>)	OKA Kenji, HIRASAKI Eishi, HIROKAWA Yohko, Yosihhiko NAKANO, KUMAKURA Hiroo	2010/8/1	American Journal of Physical Anthropology	142(3): 650-654
国際会議 (proceedings なし)	The locomotor adaptation of the pelvic morphology in <i>Nacholapithecus</i>	Yoshihiko Nakano, Naomichi Ogihara, Daisuke Shimizu, Hiroshi Tsujikawa, Haruyuki Makishima, Miyuki Kagaya, Tomo Takano, Yutaka Kunimatsu, Hidemi Ishida	2010/9/1	霊長類研究	26 suppl.:72
会議報告/口頭発表	ニホンザルの4足歩行時における体肢の強調運動と歩行速度	日暮泰男、中野良彦、熊倉博雄	2010/11/1	第31回バイオメカニズム学術講演会予稿集	85
会議報告/口頭発表	Peculiar morphological change of human remains in Bishri region, Syria.	Nakano, Y. and Ishida, H.	2010/12/1	Anthropological Science	118(3): 226

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 0 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 0 名、留学生 0 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 0 件、国際会議 1 件、会議報告 2 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	Palmar and plantar pressure while walking on a horizontal ladder and single pole in <i>Macaca fuscata</i>	HIGURASHI Yasuo, HIRASAKI Eishi, KUMAKURA Hiroo	2010/4/1	International Journal of Primatology	31: 181-190
学術論文	Brief communication: Dynamic plantar pressure distribution during locomotion in Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>)	HIRASAKI Eishi, HIGURASHI Yasuo, KUMAKURA Hiroo	2010/5/1	American Journal of Physical Anthropology	142: 149-156
会議報告/口頭発表	ニホンザルの4足歩行時における体肢の強調運動と歩行速度	日暮泰男、中野良彦、熊倉博雄	2010/11/1	第31回バイオメカニズム学術講演会予稿集	85

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 21 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 2 件）、修士（主査 1 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 3 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 1 名）、卒業研究指導学生数 4 名、留学生 0 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 4 件、国際会議 3 件、会議報告 5 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	Old grandmothers provide essential care to their young granddaughters in a free-ranging group of Japanese monkeys (<i>Macaca fuscata</i>)	Nakamichi, M., Onishi, K., & Yamada, K.	2010/4/1	Primates	in press
学術論文	ニホンザルによるムササビへの攻撃反応	大西賢治, 山田一憲, 中道正之	2010/7/1	霊長類研究	26: 35-49.
学術論文	Maternal infant monitoring in a free-ranging group of Japanese macaques (<i>Macaca fuscata</i>)	ONISHI K. & NAKAMICHI M.	2011/2/1	International Journal of Primatology	32: 209-222.
国際会議 (proceedings あり)	Maternal visual monitoring in Japanese macaques: Allocation of maternal investment in infant protection.	ONISHI K. & NAKAMICHI M.	2010/9/1	Primate Research	26: 242.
国際会議 (proceedings あり)	Dealing with weaning conflict in Japanese macaques.	K. YAMADA & M. Nakamichi	2010/9/1	Primate Research	26: 243
会議報告/口頭発表	餌付け集団の1歳齢子ザルにおける母の子育てスタイルと子の社会的相互交渉	鋤納有実子 大西賢治 中道正之	2010/6/1		
会議報告/口頭発表	餌付けニホンザル集団の1歳齢子ザルにおける母の子育てスタイルと子の社会的相互交渉	鋤納有実子 大西賢治 中道正之	2010/8/1	動物心理学研究	60: 168.
会議報告/口頭発表	王子動物園で暮らすアカカンガルーの子育てと母子関係	高田永・山田一憲・中道正之	2011/3/1	京都大学連携動物園キックオフシンポジウム「ず〜どすえ。動物園大学 in 京都」	

分類(著書 ・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 ／掲載誌	巻号頁
解説・総説	Lifetime social development in female Japanese macaques	Nakamichi, M. & Yamada, K.	2010/8/1	The Japanese macaques	

所属： 社会学系 氏名： 稲場 圭信

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 15 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 2 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 2 名）、卒業研究指導学生数 0 名、留学生 0 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 1 件、国際会議 2 件、会議報告 2 件、
 大学等の報告 2 件、解説・総説 件、書評 1 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	SGI-USA におけるアメリカ化の進展-他民族社会における会員のインタビューから-	川端亮・秋庭裕・稲場圭信	2010/6/1	宗教と社会	16号、89-110頁
学術論文	SGI-USA におけるアメリカ化の進展-多民族社会における会員のインタビューから-	川端亮・秋庭裕・稲場圭信	2010/6/1	宗教と社会	16号、89-110頁
会議報告/口頭発表	Conversion Process of SGI-USA members	Keishin INABA	2010/8/1		
会議報告/口頭発表	ソーシャル・キャピタルとしての宗教-日韓英米の現状-	稲場圭信	2010/9/1		
大学・研究所等の報告	利他主義の可能性～『思いやり格差』社会への挑戦	稲場圭信	2010/6/1		
大学・研究所等の報告	ポストグローバル時代における宗教・文化・福祉—地政学的にアジアをみる—	稲場圭信	2010/9/1		
大学・研究所等の報告	Disparities in Compassion in Contemporary Japan	Keishin INABA	2011/2/1		

所属： 社会学系 氏名： 川端 亮

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 20 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 2 件）、修士（主査 1 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 7 名、前期課程 2 名、副指導教員：後期課程 4 名、前期課程 6 名）、卒業研究指導学生数 6 名、留学生 1 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 2 件、国際会議 1 件、会議報告 1 件、大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	社会学事典	日本社会学会 社会学事典刊 行員会編	2010/6/1	丸善	「現代人の 宗教意識 と宗教行 動」項目を 執筆
学術論文	SGI-USA におけるアメリカ化の 進展－多民族社会における会 員のインタビューから－	川端亮・秋庭 裕・稲場圭信	2010/6/1	宗教と社会	16号、 89-110 頁
学術論文	国際文化交流機関の評価手 法開発研究における諸方法3	川端亮・真鍋一 史	2010/10/1	関西学院大学 社会学部紀要	100号、 33-46 頁
会議報告/口頭 発表	A Two-Stage Translation” Panel “Americanization and Post-Americanization of a Japanese New Religion: The Case of SGI-USA	Akira Kawabata	2010/8/1		
会議報告/口頭 発表	体験談と宗教意識の研究－日 米の体験談の比較－	川端亮	2010/9/1		

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 15 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 1 件）、修士（主査 1 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 3 名、副指導教員：後期課程 不明 名、前期課程 不明 名）、卒業研究指導学生数 不明 名、留学生 5 名、研究生 名、その他（学進客員研究員 1 名）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 件、学術論文 5 件、国際会議 4 件、会議報告 4 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 1 件、書評 1 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	Deadly Virtues: Inner-worldly Asceticism and Karoshi in Japan.	Scott North	2011/3/1	Current Sociology	Vol. 59. No. 2 (March 2011), 146-159
国際会議 (proceedings あり)	Changes in Japanese Fatherhood after Two Decades of Recession	Scott North	2010/6/1		
国際会議 (proceedings あり)	Strategies of Leisure in Japan	Scott North	2010/7/1	Mapping Life and Leisure through the Ages	
会議報告/口頭発表	It's Tough to Be a Man (Too): Japanese Work-Family Balance Issues from Men's Point of View	Scott North	2011/3/1		
大学・研究所等の報告	Work-Life in Japan	Scott North	2011/2/1	Boston College Center for Work & Family Executive Briefing Series	
解説・総説	Comment on "Voices from the Margins or Truer View of Mainstage? Grassroots Politics, Activism and Social Movements of Civil Society in Japan"	Scott North	2011/3/1		
書評	Review of: THE ART OF THE GUT: Manhood, Power, and Ethics in Japanese Politics. By Robin M. LeBlanc.	Scott North	2011/3/1	Pacific Affairs	Vol. 84. No. 1

(4) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2010/4/1	Charles Weathers, Scott North	William L. Holland Prize	Pacific Affairs http://www.pacificaffairs.ubc.ca/announcements/holland_prize.html

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 10 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 2 件）、修士（主査 0 件、副査 3 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：
 後期課程 2 名、前期課程 6 名）、卒業研究指導学生数 1 名、留学生 0 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 0 件、国際会議 件、会議報告 4 件、
 大学等の報告 件、解説・総説 21 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	介護保険の意味論～制度の本質から介護保険のこれからを考える～	堤 修三	2010/10/1	中央法規出版	
著書	提言 これでもいいのか介護保険！（要介護認定を巡る白澤教授との対論）	公益社団法人認知症の人と家族の会・編	2010/12/1	クリエイツかもがわ	
解説・総説	憲法の中に在る矛盾	堤 修三	2010/4/1	月刊介護保険情報	2010年4月号
解説・総説	介護保険の意味論(9)～介護保険サービスの対価①～	堤 修三	2010/4/1	月刊シニアビジネスマーケット	2010年4月号
解説・総説	気がつけば北欧型福祉国家？	堤 修三	2010/5/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	介護保険の意味論(10)～介護保険サービスの対価②～	堤 修三	2010/5/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	介護保険の意味論(11)～利用者負担～	堤 修三	2010/6/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	介護(保険)は理解されたか	堤 修三	2010/6/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	介護保険の意味論(12)～介護保険の財源構成～	堤 修三	2010/7/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	子ども手当を巡る不誠実	堤 修三	2010/7/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	個室ユニットケアを巡る3つのがっかりと1つの夢	堤 修三	2010/8/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	介護保険の意味論(13)～1号保険料～	堤 修三	2010/8/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	介護保険の意味論(14)～2号保険料～	堤 修三	2010/9/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	何ともみみっちい政治主導～高齢者医療制度改革中間とりまとめ案を読んで～	堤 修三	2010/9/1	月刊介護保険情報	

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
解説・総説	個室ユニットケアを巡る3つのがっかりと1つの夢(増補)	堤 修三	2010/10/1	精神保健ミニコミ誌クレイエル	530
解説・総説	私たちは今どこに立っているか	堤 修三	2010/10/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	個室ユニットケアの逆流・遺響	堤 修三	2010/11/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	介護保険を支えるトリアード、しかし兵站が弱い	堤 修三	2010/12/1	月刊介護保険情報	2010年 12月号
解説・総説	高齢者医療制度はどこへ行くのか	堤 修三	2010/12/1	月刊保険診療	
解説・総説	税による保健事業と保険料による保健サービス	堤 修三	2010/12/1	月刊保健師ジャーナル	
解説・総説	給付と負担、さあどうする！！……？	堤 修三	2011/1/1	月刊介護保険情報	2011年 1月号
解説・総説	読書感想文－社会保障の正義とは何か－	堤 修三	2011/2/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	ストライクゾーンいっぱいの介護保険	堤 修三	2011/3/1	月刊介護保険情報	

所属： 社会学系 氏名： 東 園子

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 0 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 0 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 0 件、国際会議 0 件、会議報告 3 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（講演 2 件）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	文化社会学入門 ——テーマとツール	井上俊・長谷正人(編著者)	2010/10/1	ミネルヴァ書房	P.114-115
会議報告/口頭発表	男役／娘役らしさを装う——タカラジェンヌの私服の演出	東 園子	2010/5/1		
会議報告/口頭発表	親密性のコードとホモソーシャルティ	東 園子	2010/11/1		
会議報告/口頭発表	俺俺たちの親密な関係——星野智幸『俺俺』と男性のホモソーシャルティの現在	東 園子	2011/3/1		

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 20 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 0 名、留学生 0 名、研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 3 件、国際会議 2 件、会議報告 5 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	「風土と思索、あるいは、浜松と哲学」浜松文芸館(編)『続・風紋のアンソロジー』	中山 康雄	2010/4/1	浜松文芸館	pp. 25-38
著書	『科学哲学』ブックガイドシリーズ 基本の 30 冊	中山 康雄	2010/10/1	人文書院	pp. 3-63, pp. 71-83, pp. 91-200
著書	「形而上学から科学技術論へ」戸田山和久・出口康夫(編)(2011)『応用哲学を学ぶ人のために』	中山 康雄	2011/3/1	世界思想社	
国際会議 (proceedings あり)	Existence of an Operator of a Teleoperated Android during a Conversation	Yasuo Nakayama, Masahiko Igashira, Tora Koyama	2010/8/1	Proceedings of the 7th International Conference on Cognitive Science	pp. 433-434
会議報告/口頭発表	ロボット工学に関する哲学的考察	中山 康雄	2010/9/1	第 28 回日本ロボット学会学術講演会発表論文集 (CD-ROM 版)	CD-ROM 版のため 4 ページ
会議報告/口頭発表	アフォーダンス系の創発と遷移に関する哲学的考察	中山 康雄・福田 佑二	2010/9/1	日本認知科学会第 27 回大会発表論文集 (CD-ROM 版)	pp. 605-614

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 16 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 1 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 1 名、副指導教員：後期課程 5 名、前期課程 2 名）、卒業研究指導学生数 3 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 10 件、国際会議 2 件、会議報告 4 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 1 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	メタファーという治療装置 フォーカシング・フッサール・よしもとばなな	村上靖彦	2010/4/1	現代思想	38-7, pp.236-245
学術論文	潜在的視線触発—自閉症の基本構造についての現象学的仮説	村上靖彦	2010/12/1	精神科治療学	25(12), pp.1627-1632
学術論文	ノスタルジー 初期ジュネの非存在論	村上靖彦	2010/12/1	ユリイカ	43(1), pp.89-99
学術論文	Affection, Autism and Mental Disorders: Husserl's Theory of Meaning and Psychopathology	yasuhiko murakami	2010/12/1	studia phaenomenologica	10, pp.193-204
学術論文	Affection d'appel et prenom. Pour une phenomenologie de l'acquisition de la langue et de la communication	Yasuhiko Murakami	2011/2/1	Annales de phenomenologie	10, pp.163-176
学術論文	看護行為の時間 西村ユミとハイデガー行為論の拡張	村上靖彦	2011/2/1	UTCP Booklet	18, pp.141-158
学術論文	固有名とその病理	村上靖彦	2011/2/1	現代思想	39(2), pp.126-137
学術論文	Affection of contact and transcendental telepathy in schizophrenia and autism	yasuhiko murakami	2011/2/1	Phenomenology and the Cognitive Sciences	10(1), pp.@@
学術論文	潜在的な視線触発と超越論的テレパシー	村上靖彦	2011/2/1	看護研究	44(1), 76-84
学術論文	秘密とその未来—ウィニコット・ラブランシュ・ドルトとコミュニケーションのねじれ	村上靖彦	2011/3/1		37, pp.117-134

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
国際会議 (proceedings あり)	Potential Affection of Contact - Autism and Otherness	yasuhiko murakami	2010/12/1		
国際会議 (proceedings なし)	Le tournant du messianisme en 1961 et la cure du traumatisme ; Une lecture des "Textes messianiques"	yasuhiko murakami	2010/7/1		
会議報告/口頭発表	私の名前と言語の空間	村上靖彦	2010/6/1		
会議報告/口頭発表	行為が見えてくる～ハイデガーと看護	村上靖彦	2010/7/1		
会議報告/口頭発表	「秘密とその未来——ウイニコット・ラプランシュ・ドルトとコミュニケーションのねじれ」	村上靖彦	2010/10/1		
会議報告/口頭発表	「看護研究を行為の現象学として読む——西村ユミ: 目の光とひっかかりの時間性」	村上靖彦	2010/10/1		
会議報告/口頭発表	重力と水 ——ALS 介護におけるゆっくりとしたコミュニケーション	村上靖彦	2011/3/1		
書評	『質的研究のための現象学入門』書評	村上靖彦	2010/4/1	看護研究	Mar-43
書評	書評加藤敏著『人の絆の病理と再生 臨床哲学の展開』	村上靖彦	2011/3/1	図書新聞	3005号, p. 5
その他	統合失調症と自閉症の現象学	木村敏・村上靖彦	2010/9/1	現代思想	38(12)

所属： 人間学系 氏名： 森田 敦郎

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 6 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査0件、副査0件）、修士（主査0件、副査2件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程2名、前期課程3名、副指導教員：後期課程4名、前期課程4名）、卒業研究指導学生数 名、留学生 名、研究生 名、その他（ 卒業研究については全体指導 ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書1件、学術論文2件、国際会議8件、会議報告4件、大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

所属： 教育学系 氏名： 藤川 信夫

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 14 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 3 名、前期課程 3 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 1 名）、卒業研究指導学生数 2 名、留学生 0 名、
 研究生 2 名、その他（卒業研究指導学生 2 名を除く学部生 6 名）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 1 件、国際会議 1 件、会議報告 0 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 1 件、その他（「図書新聞」記事 1 件）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	優生学から見た子ども、教育(学)から見た子ども－藤川信夫(編著)『教育学における優生思想の展開(勉誠出版 2008 年)の総括として－』	藤川信夫	2011/3/1	大阪大学教育学年報	16 巻

(4) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2010/8/1	藤川信夫・樊秀麗・普学旺	国家珍貴古籍名録(番号 09750)	中華人民共和国文化部

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 19 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 2 名）、卒業研究指導学生数 2 名、留学生 2 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 0 件、国際会議 1 件、会議報告 2 件、
 大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	山内祐平編『デジタル教材の教育学』2章 学びの文脈を作る マルチメディア教材	西森年寿	2010/4/1	東京大学出版会	
著書	山内祐平編著『学びの空間が大学を変える』3章 ケーススタディ: マイライフ・マイライブラリー(東京女子大学)	西森年寿	2010/5/1	ボイックス株式会社	78-99
学術論文	アカデミック・ライティングを支援する ICT を活用した協同推敲の実践と評価	舘野泰一, 大浦弘樹, 望月俊男, 西森年寿, 山内祐平, 中原淳	2011/3/1	日本教育工学会論文誌	Vol.34, No.4
国際会議 (proceedings あり)	Linearity and Synchrony: Quantitative Metrics for Slide-based Presentation Methodology	Kazutaka Kurihara, Toshio Mochizuki, Hiroki Oura, Mio Tsubakimoto, Toshihisa Nishimori, Jun Nakahara, Yuhei Yamauchi and Katashi Nagao	2010/11/1	ICMI-MLMI 2010	
会議報告/口頭発表	デザイン教育の特徴を取り入れた Project-Based Learning 支援システムの評価	八重樫文, 小野純平, 望月俊男, 西森年寿, 加藤浩, 常松晃	2010/9/1	日本教育工学会第26回全国大会講演論文集	pp.59-62
会議報告/口頭発表	改訂 LOS(Lunar Observation Support)システムを使った国際協調実践のデザイン	鈴木真理子, 宮田仁, 西森年寿, 松野浩平	2010/9/1	日本教育工学会第26回全国大会講演論文集	pp.819-820

分類(著書・学术论文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
大学・研究所等の報告	大学授業でのグループワークとWEB	西森年寿	2011/1/1	cybermedia forum (大阪大学サイバーメディアセンター)	11

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 6 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 件）、修士（主査 件、副査 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 名、前期課程 名、副指導教員：後期課程 名、前期課程 名）、卒業研究指導学生数 名、留学生 名、研究生 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 4 件、国際会議 件、会議報告 3 件、大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	協同と表現のワークショップー学びのための環境のデザイン	森秀樹(茂木一司 編集代表)	2010/11/1	東信堂	
学術論文	低帯域高精細映像伝送方式による国際間遠隔学習	中澤明子、松河秀哉、奥林泰一郎、森秀樹、前迫孝憲	2010/12/1	日本教育工学会論文誌	34(Suppl.), 85-88
学術論文	Scratch を用いた文系大学生向けプログラミング教育	森秀樹	2010/12/1	日本教育工学会論文誌	34(Suppl.), 141-144
学術論文	Scratch を用いた小学校プログラミング授業の実践～小学生を対象としたプログラミング教育の再考～	森秀樹、杉澤学、張海、前迫孝憲	2011/3/1	日本教育工学会論文誌	34(4), 387-394
学術論文	Practical Study on Computer-Embedded Monodukuri Workshops for Elementary School Students	Hideki Mori	2011/3/1	The Journal of Information and Systems in Education	Vol.9(1), in press
会議報告/口頭発表	プログラミングを活用した小学校理科学習	森秀樹、杉澤学、前迫孝憲	2010/9/1	日本教育工学会第 26 回全国大会講演論文集	737-738
会議報告/口頭発表	PC とフリーウェアを活用した低帯域高精細映像伝送方式による国際間遠隔学習の実施	中澤明子、松河秀哉、奥林泰一郎、森秀樹、前迫孝憲	2010/9/1	日本教育工学会第 26 回全国大会講演論文集	571-572
会議報告/口頭発表	3 地点接続の「超鏡」を用いた遠隔学習の実施	中澤明子、奥林泰一郎、森秀樹、中村優希、前迫孝憲、片岡佐知子、松山豊樹、中尾正博、佐藤哲夫、小川恵美子、川杉照雄、橋本剛正、森川治	2011/3/1	日本教育工学会研究報告集	JSET11-1, 255-262

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
解説・総説	ママのためのぶち心理学「子どもがすすんでお片づけするように仕向けるには」	三宮真智子	2010/9/1	Happy-Note	秋号 vol.24, 81
解説・総説	ママのためのぶち心理学「ママ友つきあいで悩まないために」	三宮真智子	2010/11/1	Happy-Note	冬号, vol.25, 59
解説・総説	ママのためのぶち心理学「話がわかりにくいと言われないために」	三宮真智子	2011/3/1	Happy-Note	春号 Vol.26, 53

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 18 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 1 件）、修士（主査 3 件、副査 7 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 5 名、副指導教員：後期課程 7 名、前期課程 7 名）、卒業研究指導学生数 2 名、留学生 1 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 0 件、国際会議 1 件、会議報告 6 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	立位姿勢保持における意図の効果—健常成人を調査対象として—	井村修・松浦由加子・藤野陽生	2010/12/1	2010 年度日本リハビリテーション心理学会大会発表論文集	40-41
会議報告/口頭発表	臨床動作法を用いたリラクゼーション体験による身体意識の変化に関する研究—身体感覚意識尺度の作成を通じて—	藤野陽生・井村修	2010/12/1	日本リハビリテーション心理学会発表論文集	38-39
会議報告/口頭発表	筋ジストロフィー病棟におけるケース・カンファレンス—亡くなられた A さんの事例—	柴田早紀・井村修・藤村晴俊	2011/3/1	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費「筋ジストロフィーの就学的治療と均てん化に関する研究」平成 22 年度報告書	印刷中

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	精神状態に対する否定的イメージが精神的健康に与える影響:「自分はうつ病なのではないか」と感じる体験をもとに	福永泰士・佐々木淳	2010/9/1	日本心理学会第74回大会(大阪大学)発表論文集	329
会議報告/口頭発表	「若手臨床心理士が語る認知行動療法の基本」の指定討論	佐々木淳	2010/9/1	日本心理臨床学会第29回大会発表論文集	598
会議報告/口頭発表	臨床実践と基礎研究:協働のための方法. シンポジウム「臨床実践と心理学研究の対話:両者の知見を生かすために」への話題提供	佐々木淳	2010/9/1	日本心理学会第74回大会(大阪大学)発表論文集	S14
会議報告/口頭発表	自己呈示欲求が対人ストレスコーピングに与える影響: 方略選択の認知を媒介する3つのモデルの比較	川口ことみ・佐々木淳	2010/9/1	日本心理学会第74回大会(大阪大学)発表論文集	330
解説・総説	McGill University への留学体験	佐々木淳	2010/7/1	心理学ワールド	50, 32

所属： 教育学系 氏名： 平沢 安政

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 16 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 2 件、副査 0 件）、修士（主査 1 件、副査 3 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 4 名、前期課程 4 名、副指導教員：
 後期課程 3 名、前期課程 2 名）、卒業研究指導学生数 1 名、留学生 2 名、
 研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 2 件、国際会議 0 件、会議報告 0 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（ 2 件 ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	学びから始まる私たちの人権	平沢安政他	2010/12/1	解放出版社	
学術論文	教育活動全体を人権尊重の視点で貫く	平沢安政	2010/4/1	部落解放	第 628 号、 22 頁～30 頁
学術論文	人権教育と道德教育の関係性をめぐっての問題提起	平沢安政	2010/11/1	部落解放研究	No.190, pp.2-8
解説・総説	「人権文化を豊かにする」方向で	平沢安政	2010/12/1	ヒューマンライツ	No.273
その他	自分も他の人も大切にできる子どもを育む人権教育	平沢安政	2011/1/1	ひょうご人権ジャーナル きずな	
その他	広告業務と人権－豊かな人権文化の創造をめざして	平沢安政	2011/3/1	JAAA REPORTS	No.644

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 0 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 10 名、前期課程 12 名）、卒業研究指導学生数 6 名、留学生 4 名、研究生 3 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 0 件、国際会議 0 件、会議報告 2 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（調査報告書 1 ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	教育社会学への招待 9章「人権は『心』の問題か—同和問題と人権教育」	志水宏吉監修、西田芳正・若槻健編	2010/4/1	大阪大学出版会	pp.145-162.
著書	志水宏吉監修、若槻健・西田芳正編『教育社会学への招待』, 第 10 章「性差別と教育」	木村涼子	2010/4/1	大阪大学出版会	
著書	人権年鑑 2011 第 4 部第 3 章「学校教育」	(社)部落解放・人権研究所編	2011/3/1	解放出版社	pp.108-110
会議報告/口頭発表	教育における積極的格差是正措置—貧困の世代的再生産を断つために	高田一宏	2010/9/1	日本教育社会学会第 62 回大会 課題研究「子どもの貧困と教育(2)」	
会議報告/口頭発表	社会関係資本と学力—「つながり格差」仮説の再検討	高田一宏、鈴木勇、知念渉、中村瑛仁	2010/9/1	日本教育社会学会第 62 回大会 「社会構造と教育2」部会	
その他	F 県調査	高田一宏	2010/4/1	学力向上策の比較社会学的研究—公正と卓越性の確保の視点から—平成 21 年度都道府県現地調査のまとめ(平成 21 年度科研報告書)	pp.102-122

所属： 教育学系 氏名： 鈴木 勇

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 3 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 件）、修士（主査 件、副査 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 名、前期課程 名、副指導教員：
後期課程 名、前期課程 名）、卒業研究指導学生数 名、留学生 名、
研究生 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 件、学術論文 件、国際会議 件、会議報告 件、
大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 11 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 8 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 9 名、副指導教員：後期課程 5 名、前期課程 8 名）、卒業研究指導学生数 4 名、留学生 8 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 2 件、国際会議 2 件、会議報告 6 件、大学等の報告 2 件、解説・総説 0 件、書評 1 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	こんなに違う！世界の国語教科書(分担第 10 章:ケニア 独立から半世紀、厳しい現実に抗う教育)(二宮皓監修)	澤村信英	2010/6/1	メディアファクトリー新書	163-178
学術論文	ケニアの初等教育分野における〈マルチ・フィールドワーク〉の試み—アフリカにおける複眼的な子ども研究をめざして—	澤村信英・伊藤瑞規・倍賞佑里・吉田孝之・稲垣陽平	2010/12/1	アフリカ教育研究	1 号、24-40 頁
学術論文	UPE Policy and Quality of Education in Kenya (Chapter 3)	Daniel N. Sifuna, Nobuhide Sawamura, Francis Likoye Malenya, Kentaro Shimada	2011/3/1	Universal Primary Education Policy and Quality of Education in Sub-Saharan Africa	41-63
国際会議 (proceedings あり)	Challenges of Quality Education in Sub-Saharan Africa: Some Key Issues	Daniel N. Sifuna, Nobuhide Sawamura	2011/3/1	Africa-Asia University Dialogue for Educational Development: Reports of the International Experience Sharing Seminar (1)	
会議報告/口頭発表	ケニアにおける小学校就学の意味と役割—地域差を生み出す要因—	澤村信英	2010/4/1		

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	ケニア・ラム島における初等教育の質—学力不足は問題か—	澤村信英	2010/5/1	日本アフリカ学会 第47回学術大会 研究発表要旨集	21 頁
会議報告/口頭発表	ケニアにおける初等教育就学の意味と価値—子どもを取りまく社会の現実—	澤村信英	2010/6/1	日本比較教育学会 第46回大会発表要旨集録	197 頁
会議報告/口頭発表	サブサハラアフリカにおける初等教育普及政策の政策的示唆と今後の国際協力—ケニアの事例—	澤村信英	2010/6/1	日本比較教育学会 第46回大会発表要旨集録	153 頁
会議報告/口頭発表	ケニアの小学校における自主的な学校改善努力の特徴—教育の質向上をめざす支援に対する考察—	澤村信英	2010/10/1	アフリカ教育研究フォーラム第6回大会発表要旨集録	20 頁
会議報告/口頭発表	ケニアの初等教育分野における「マルチ・フィールドワーク」の試み—学校文化をめぐって—	伊藤瑞規・稲垣陽平・澤村信英	2010/11/1		
会議報告/口頭発表	ケニアの小学校における自主的な学校改善努力とその背景	澤村信英	2010/12/1	第21回国際開発学会全国大会報告論文集	109-112 頁
会議報告/口頭発表	ケニアの困難な状況にある子どもたちと就学—障がい、労働、慣習—	倍賞佑里・吉田孝之・澤村信英	2010/12/1		
書評	書評 山田肖子著『国際協力と学校—アフリカにおけるまなびの現場—』	澤村信英	2010/6/1	比較教育学研究	41号、189-191 頁

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 16 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 1 件）、修士（主査 1 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 3 名、副指導教員：後期課程 1 名、前期課程 5 名）、卒業研究指導学生数 1 名、留学生 1 名、研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 1 件、国際会議 1 件、会議報告 1 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 3 件、書評 1 件、その他（研究会などでの発表 2 件）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	途上国開発においてスポーツが果たす役割ーカンボジア王国の事例から考えるスポーツを通じた開発ー	竹下(岡田)千あき	2010/12/1	神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士学術論文	
会議報告/口頭発表	Efforts for Redevelopment of Sport in Cambodia -Looking back at a Life History of a Football Player who survived the Khmer Rouge Regime-	Chiaki Okada	2010/8/1	日本運動スポーツ科学学会国際健康・スポーツ分科会第 8 回大会抄録集	
会議報告/口頭発表	途上国におけるスポーツを通じた開発ーカンボジア王国のサッカーリーグの事例からー	岡田千あき	2010/10/1	日本生涯スポーツ学会第 12 回大会抄録集	
解説・総説	スポーツのカー人間力を育むもう一つの現場ー	岡田千あき	2010/4/1	JICA's World	2010 年 4 月号
解説・総説	スポーツ普及を通じての国際協力	岡田千あき	2010/6/1	スポーツ国際青年	第 15 号
解説・総説	スポーツを通じた開発	岡田千あき	2011/2/1	スポーツ白書 2010 スポーツが目指すべき未来	p.216-217

所属： グローバル人間学系 氏名： 千葉 泉

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 17 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 1 件）、修士（主査 1 件、副査 6 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名、副指導教員：後期課程 1 名、前期課程 3 名）、卒業研究指導学生数 23 名、留学生 1 名、研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 1 件、国際会議 1 件、会議報告 2 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 1 件、書評 1 件、その他（人間科学に関連する、日本語およびスペイン語での自作曲 9 曲を収録した CD 1 点を製作）

(3) 受賞・特許・作品、他

発表年月	製作者名	作品名	発表場所
2011/3/1	IZUMI CHIBA, 千葉 泉	CANTOS DEL CORAZON II, こころの歌 II	シンポジウムやコンサートなど

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 15 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 件）、修士（主査 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 2 名）、卒業研究指導学生数 5 名、留学生 名、
 研究生 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 3 件、国際会議 件、会議報告 件、
 大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	女性史からみた岩国米軍基地－広島湾の軍事化と性暴力	藤目ゆき	2010/10/1	ひろしま女性学研究所	
著書	ベトナム女性史－フランス植民地時代からベトナム戦争まで	監修者藤目ゆき／原著者ル・ティ・ニャム・トゥエット／訳者／片山須美子	2010/12/1	明石書店	
学術論文	被差別部落と買売春	藤目ゆき	2011/1/1	ジェンダー史叢書第1巻 権力とジェンダー	1
その他	インドネシア9・30事件と民衆の記憶	藤目ゆき	2010/7/1	別冊飛礫	創刊号

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 25 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 0 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 4 名）、卒業研究指導学生数 8 名、留学生 1 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 4 件、学術論文 9 件、国際会議 6 件、会議報告 1 件、
 大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	『水銀汚染土壌の改質と貴金属回収に関する応用開発に直結した基礎的研究』	三好恵真子	2010/10/1	平成21年度ヒューマンサイエンスプロジェクト研究成果報告書	
著書	Rheological and Thermal Studies on the Sol-Gel Transition of Gellan Gum and Mixed Polysaccharides	Miyoshi,E.	2010/10/1	Osaka University Knowledge Archive	
著書	「グローバル化する環境問題への挑戦-文理融合研究の新たな可能性-」『グローバル人間学の世界』	三好恵真子(中村安秀・河森正人 編)	2011/3/1	大阪大学出版会	
著書	絡議如何构建中国食品的風險溝通:以中国速凍餃子中毒事件為例考証食品安全性與消費者安心感和信任感之間的關係(江沛, 許育銘, 田中仁 編集)『現代中国社会變動與東亞新格局』	三好恵真子	2011/3/1	社会科学文献出版社	
学術論文	絡議如何构建中国食品的風險溝通:以中国速凍餃子中毒事件為例考証食品安全性與消費者安心感和信任感之間的關係	三好恵真子(金晶訳)	2010/4/1	Osaka University Knowledge Archive	2010.4.1
学術論文	中国の環境問題をどう捉えるべきかー人間の安全保障とサステナビリティ学の実践的展開を目指してー	三好恵真子	2010/8/1	第四回「現代中国と東アジアの新環境:近代中国革命, 社会変化と国際的視角」国際学術シンポジウム」論文集	p.p.65-81

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	金属製錬に起因する汚染土壌の復元、再資源化に関する研究－日本の経験と中国の現実を結ぶサステイナビリティ学の実践的展開－	姉崎正治, 田昊, 三好恵真子	2010/8/1	第四回「現代中国と東アジアの新環境: 近代中国革命, 社会変化と国際的視角」国際学術シンポジウム」論文集	p.p.195-211
学術論文	集積する都市電子廃棄物による中国の環境問題とその対策－人間の安全保障とサステイナビリティ学の実践的展開を目指して－	三好恵真子	2010/12/1	New Food Industry	Vol.52, No. 12, 53-61
学術論文	如何認識中国的環境問題: 如何在實踐中应用人類安全保障概念與可持續發展学	三好恵真子(袁曉今訳)	2011/1/1	大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー	No.2011-1, 1-9
学術論文	如何認識中国的環境問題: 如何在實踐中应用人類安全保障概念與可持續發展学	三好恵真子(袁曉今訳)	2011/2/1	Osaka University Knowledge Archive	2011.2.1.
学術論文	スペイン植民時代のボトシ鉱山における銀製錬技術の再評価と今日的応用開発への可能性	姉崎正治, 三好恵真子	2011/3/1	大阪大学人間科学紀要	第 37 号, p.p.299-320
学術論文	中国の重金属汚染土壌の現状と今後の対策に向けて－日本の歴史的射程から得られた教訓と最新技術開発の展望を踏まえて	姉崎正治, 三好恵真子	2011/3/1	大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー	No.2011-6, 1-30
学術論文	Thermal Properties of Mixed Gel System Formed by κ -Carrageenan and Casein	Miyoshi,E.	2011/3/1	Bulletin by Graduate School of Human Sciences	Vol.37, 275-298
国際会議 (proceedings あり)	Globalization and Its Impact on China's Environment: Human Security and Exploring Sustainability Science	Miyoshi,E.	2010/8/1	The Fourth International Symposium: Social Change of Contemporary China and New Challenge of East Asia	Proceedings

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
国際会議 (proceedings あり)	A Basic Research on Functional Properties of Antifreeze Protein and its Applications	Miyoshi,E.	2010/8/1	5th Pacific Rim Conference on Rheology (PRCR-5)	PRCR-5 Proceedings
国際会議 (proceedings あり)	金属製錬に起因する汚染土壌の復元、再資源化に関する研究－日本の経験と中国の現実を結ぶサステイナビリティ学の実践的展開－	姉崎正治, 田昊, 三好恵真子	2010/8/1	第四屆現代中國社會變動與東亞新格局國際學術討論會	会議手冊
国際会議 (proceedings あり)	Effects of Nutritional Transition and Life Environment on the Obesity of Preschool Aged Children in Vietnam	Yamazaki, Y., Son, T. H., Sumimura, Y., and Miyoshi, E.	2010/10/1	8th Asia-Pacific Travel Health Conference & 14th Annual Meeting of Japanese Society of Travel and Health	Proceedings
国際会議 (proceedings あり)	A Study on the Association of Lifestyle and Eating Habit with Overweight by Pre-School Aged Children in Vietnam	Yamazaki, Y., Son, T. H., Sumimura, Y., and Miyoshi, E.	2010/11/1	5th Asian Congress of Dietetic	Proceedings
国際会議 (proceedings あり)	Globalization and Its Impact on China's Environment: Human Security and Exploring Sustainability Science	Miyoshi,E.	2011/3/1	The International Conference on Environment and Food Safety, Beijing	Proceedings
大学・研究所等の報告	水銀汚染土壌の改質と貴金属回収に関する応用開発に直結した基礎的研究	三好恵真子	2010/10/1	平成21年度ヒューマンサイエンスプロジェクト成果報告会	関連資料
その他	都市鉱山(廃棄携帯電話)開発に関する共同研究	三好恵真子, 姉崎正治 晃立工業(株)	2011/1/1	3R(Reduce Reuse Recycle) special event 中小ベンチャー企業パビリオン経産省主催特別企画(40回インターネフコン・ジャパン・第28回エレクトロテスト・ジャパン)	新規開発技術展示

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 25 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 2 件）、修士（主査 0 件、副査 2 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 2 名）、卒業研究指導学生数 4 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 2 件、国際会議 1 件、会議報告 3 件、大学等の報告 2 件、解説・総説 3 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	「東アジアにおける『排除された多数者』のための生活保障－比較のための試論」	河森正人	2010/9/1	『アジア太平洋論叢』	No.19, 93-113
学術論文	「タイのコミュニティ福祉基金と『互酬的積善』－社会保障と仏教的実践の融合」	河森正人	2011/3/1	『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』	No.37
会議報告/口頭発表	「老いを生きる、老いを支え合う」	河森正人	2010/7/1	アジア太平洋研究会報告集	
会議報告/口頭発表	「医療福祉領域からみた都市－農村関係」	河森正人	2010/7/1	日本タイ学会研究大会報告集	
会議報告/口頭発表	Chumchon naeo patibat kap khrongkan CTOP (CTOP プロジェクトと『実践コミュニティ』)	河森正人	2011/3/1	「高齢者向け保健サービスおよび社会福祉のネットワーク化に関する会議」(タイ保健省・JICA 共催)	
解説・総説	「タイの医療福祉制度改革－地域研究・ディシプリン・そして実践」	河森正人	2010/8/1	『アジ研ワールドトレンド』	
解説・総説	「タイの医療福祉制度改革」	河森正人	2010/9/1	『タイ国情報』	
その他	「タイの医療福祉制度改革」	河森正人	2011/3/1	末廣昭編『東アジアの生活保障システムと年金・退職金制度』科学研究費補助金報告書	

(4) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2010/7/1	河森正人	第31回 発展途上国研究奨励賞 受賞 (対象:『タイの医療福祉制度改革』御茶の水書房刊)	ジェトロ・アジア経済研究所

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： _____科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査_____件、副査_1_件）、修士（主査_____件、副査_____件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程_____名、前期課程_____名、副指導教員：後期課程_____名、前期課程_____名）、卒業研究指導学生数_____名、留学生_2_名、研究生_1_名、その他（_____）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書_5_件、学術論文_1_件、国際会議_6_件、会議報告_____件、大学等の報告_____件、解説・総説_____件、書評_____件、その他（_____）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	『人間科学のための混合研究法—質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン』(単著)	大谷順子	2010/11/1	北大路書房	
著書	「从四川大地震透視現代中国」(pp.390-402)『現代中国 社会変動與東亜新格局』田中仁,江沛,許育銘(編)	大谷順子	2011/3/1	社会科学文献出版社(北京)	390-402
著書	「世界 3 大感染症—エイズ・結核・マラリア」『テキスト国際人間開発論』勝間靖(編)	大谷順子	2011/3/1	ミネルヴァ書房	
著書	Discourse of Kodokushi (dying alone) with Japanese perspectives	Junko Otani	2011/3/1	InterDisciplinary Net(eBook)	
学術論文	「新疆ウイグル自治区の特有群体「民考漢」についての研究—ウルムチ市ウイグル族「民考漢」を事例として—」	希日娜依・買蘇提(シェリンアイ・マイステイ),大谷順子	2011/3/1	『中国 21』特集「民族と開発」	第 34 号 281-302 頁
国際会議 (proceedings あり)	Health indicators in Central Asia	Junko Otani	2010/7/1	ICCEES ? World Congress 2010 International Council for Central and East European Studies, Stockholm, Prospects for Wider Cooperation, July 2010	109

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
国際会議 (proceedings あり)	Environmental health at a time of economic growth in China: Globalization and conflict	Junko Otani	2010/9/1	Osaka University Forum 2010: Globalization and Conflict: Entanglement between local and cosmopolitan orientations, 28-30 September 2010, University of Groningen, The Netherlands 阪大 GCOE「コンフリクトの人文学国際研究教育拠点」	
国際会議 (proceedings あり)	Awareness of college students on health impact of smoking and impact of health education, measured by the Kano Test for Social Nicotine Dependence (KTSND): Comparative study of Asian countries	Junko Otani	2010/10/1	The 9th Asia Pacific Conference on Tobacco or Health (APACT), Sydney, Australia, 6-9 October 2010	
国際会議 (proceedings あり)	Discourse of Kodokushi (dying alone) with Japanese perspectives	Junko Otani	2010/11/1	Inter-Disciplinary net	
会議報告/口頭発表	Discourse analysis of case study with mixed methods research	Junko Otani	2010/8/1	The 3rd International Conference on Multicultural Discourses in Hanzhou, China, 26-30 August 2010	68
大学・研究所等の報告	Case studies of Social Development in East Asia	Junko Otani	2010/9/1	第1回北京大学—大阪大学学術交流デー 2010年9月20日	

所属： グローバル人間学系 氏名： 福岡 まどか

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 28 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 1 件）、修士（主査 1 件、副査 1 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名、副指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名）、卒業研究指導学生数 10 名、留学生 1 名、研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 1 件、国際会議 1 件、会議報告 2 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 1 件、書評 1 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	グローバル人間学の世界	河森正人・中村安秀 編	2011/3/1	大阪大学出版会	
学術論文	ジェンダーから見る物語：インドネシアのラーマーヤナにおける男性像と女性像	福岡 まどか	2011/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	37 号
その他	魔なるものを考える：ジャワ島の影絵芝居と人形劇におけるラーヴァナ誕生のエピソード	福岡まどか	2011/3/1	イスラーム世界における伝統継承に関する研究会 報告書	

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 4 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 0 名、留学生 0 名、
 研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 3 件、国際会議 2 件、会議報告 1 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	旅緬雲南穆斯林在殖民/後殖民時期的歴史叙述與邊縁文化戦略	木村自	2010/8/1	『第四届現代中国与東亜格局国際学術研討会: 近代中国革命、社会転型与国際視野』	122-131 頁
学術論文	「境界」をめぐる中国ムスリムの動態——松本光太郎先生との調査旅行の備忘録	木村自	2011/2/1	『コミュニケーション科学』	第 33 号、47-62 頁
国際会議 (proceedings あり)	Social Memory as a Peripheral Strategy: Historical Narratives and Cultural Dimension of Chinese Muslim Migrants in Postcolonial Myanmar	KIMURA Mizuka	2010/7/1		
国際会議 (proceedings あり)	旅緬雲南穆斯林在殖民/後殖民時期的歴史叙述與邊縁文化戦略	木村自	2010/8/1	『第四届現代中国与東亜格局国際学術研討会: 近代中国革命、社会転型与国際視野』	
会議報告/口頭発表	植民地期およびポスト植民地時のミャンマーにおける中国ムスリムの生存戦略	木村自	2011/3/1		
大学・研究所等の報告	ハイブリッドな主体構築の空間、ローカリティとしての<境界>雲南ムスリム移民の事例からストーリーを考える	木村自	2010/6/1	科学研究費補助金研究成果報告書・補完論文集「トランスナショナリズムと「ストリート」現象の人類学的研究」CD-R 版	367-383

分類(著書・学术论文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
その他	グローバル人間学研究会の立ち上げと取り組みの紹介——人間開発学と地域研究の融合に向けて	木村自	2011/3/1	グローバル人間学紀要	第3号、105-108頁

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 5 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 1 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、卒業研究指導学生数 4 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 3 件、国際会議 3 件、会議報告 5 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 2 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	Old grandmothers provide essential care to their young granddaughters in a free-ranging group of Japanese monkeys (<i>Macaca fuscata</i>)	M. NAKAMICHI, K. ONISHI, & K. YAMADA	2010/4/1	Primates	51: 171-174
学術論文	ニホンザルによるムササビへの攻撃反応	大西賢治・中道正之・山田一憲	2010/7/1	霊長類研究	26: 35-49
学術論文	Gender acceptance and Menarche	T. HINOYASHI, K. YAMADA, M. KATO, S. AKAI, T. KANAZAWA, T. MINAMI & N. ITOIGAWA	2010/9/1	Zukauskiene, R.(Ed.)Proceedings of the 14th European Conference on Developmental Psychology. Pianoro:Medimond.	7-10.
国際会議 (proceedings あり)	Parental investments and demands of infants (as symposium organizers).	K. YAMADA & K. ONISHI	2010/9/1	Primate Research	26:241
国際会議 (proceedings あり)	Dealing with weaning conflict in Japanese macaques.	K. YAMADA & M. Nakamichi	2010/9/1	Primate Research	26: 243
国際会議 (proceedings なし)	General discussion (as symposium organizers)	K. ONISHI & K. YAMADA	2010/9/1	The 23TH congress of the International Primatological Society (IPS)	P38

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	ニホンザルにおける社会構造の種内変異:実践編	山田一憲・井上-村山美穂	2010/6/1	第11回ニホンザル研究セミナー	
会議報告/口頭発表	離乳期のニホンザルにみられる母子の葛藤	山田一憲	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	S(18)
会議報告/口頭発表	ヒトを含む哺乳類の子育て:海生哺乳類、大型草食動物から霊長類まで(シンポジウム企画者として)	中道正之・山田一憲	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	S(18)
会議報告/口頭発表	発達加速現象の研究・その24-初潮年齢に見られる地域差の動向-	日野林俊彦・山田一憲・加藤真由子・安田純・金澤忠博・赤井誠生・南徹弘	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	1055
会議報告/口頭発表	王子動物園で暮らすアカカンガルーの子育てと母子関係	高田永・山田一憲・中道正之	2011/3/1	京都大学連携動物園キックオフシンポジウム「ず〜どすえ。動物園大学 in 京都」	
解説・総説	Lifetime social development in female Japanese macaques.	M. NAKAMICHI & K. YAMADA	2010/8/1	The Japanese macaques	241-270
解説・総説	なぜニホンザルを研究しているのですか?	山田一憲	2011/2/1	生き物たちのつづれ織り	4: 59-60

(4) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2010/10/1	山田一憲	大阪大学飛翔研究フェロー	大阪大学総長 鷲田清一

所属： 国際交流室 氏名： 上田 博司

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： _____科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査_____件、副査_____件）、修士（主査_____件、副査_____件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程_____名、前期課程_____名、副指導教員：後期課程_____名、前期課程_____名）、卒業研究指導学生数_____名、留学生_1_名、研究生_____名、その他（ _____ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書_____件、学術論文_1_件、国際会議_1_件、会議報告_____件、大学等の報告_____件、解説・総説_____件、書評_____件、その他（ _____ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	Governor Leads Country with Pioneering Secondhand Smoke Prevention Ordinance - Challenges faced by Kanagawa Prefecture, Japan	Ueda H	2011/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	37: pp.375-398.
会議報告/口頭発表	A Study on the Relationship Between Numbers of Present Teeth and Medical Expenditure in the Elderly: Findings from a Large Japanese Dataset	Ueda H, Kanda M, Yoshida, M, and Hashimoto T	2010/11/1		

所属： 学生支援室 氏名： 丸田 健

(1) 平成 22 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 4 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査____件、副査____件）、修士（主査____件、副査____件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程____名、前期課程____名、副指導教員：後期課程____名、前期課程____名）、卒業研究指導学生数____名、留学生____名、研究生____名、その他（ ）

(2) 平成 22 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文____件、国際会議____件、会議報告____件、大学等の報告____件、解説・総説____件、書評____件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	ブックガイドシリーズ 基本の 30 冊 科学哲学（丸田健執筆項目：「大森荘蔵『流れとよどみ』」）	中山康雄	2010/10/1	人文書院	Sep-64

(1) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	「都市空間の中の公営ギャンブル場～「場外」設置をめぐるコンフリクトの事例研究から」	古川岳志	2010/11/1		
解説・総説	「ギャンブルの文化」	古川岳志	2010/10/1	『文化社会学入門 ——テーマとツール』	P.84-85

(1) 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 /掲載誌	巻号頁
著書	脳イメージングーワーキング メモリと視覚的注意からみた脳	苧阪直行, 大塚結喜, 勝原摩耶, 田邊亜澄, 蘆田宏, 金田みずき, 森下正修, 坪見博之, 近藤洋史, 池田尊司, 源健宏, 松吉大輔, 矢追健, 木原健, 廣瀬信之, 内藤智之, 十河宏行	2010/7/1	培風館	79-86
学術論文	Task-irrelevant memory load induces inattentive blindness without temporo-parietal suppression	Daisuke Matsuyoshi, Takashi Ikeda, Nobukatsu Sawamoto, Ryusuke Kakigi, Hidenao Fukuyama, Naoyuki Osaka	2010/8/1	Neuropsychologia	48(10), 3094-3101
学術論文	Differential Contributions of the Intraparietal Sulcus and the Inferior Parietal Lobe to Attentional Blink: Evidence from Transcranial Magnetic Stimulation	Kihara, K., Ikeda, T., Matsuyoshi, D., Hirose, N., Mima, T., Fukuyama, H., & Osaka, N.	2011/1/1	Journal of Cognitive Neuroscience	23, 247-256
会議報告/口頭発表	課題無関連の風景文脈が顔記憶に与える影響	田邊亜澄, 池田尊司, 苧阪直行	2010/9/1	日本心理学会第74回大会発表論文集	827

(1) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	多元論的自然主義の可能性	井頭昌彦	2010/9/15 日初版発行	新曜社	全 306 頁
著書	科学哲学—人文科学ブックガイド 基本の 30 冊—	中山康雄、丸田健、前田高弘、井頭昌彦	2010/10/20 日初版発行	人文書院	全 200 頁

(2) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2010	井頭 昌彦	日本科学哲学会・石本基金出版助成	日本科学哲学会